



Continental KEYBOARD

取扱説明書

目次

安全上のご注意	2	3. ORGAN パート	13
データについて	3	4. E.PIANO パート	14
Nutube とは?	3	5. PIANO パート	14
取扱説明書について	3	6. KEY/LAYER パート	14
各部の主な機能	4	7. タッチ・コントロール	15
フロント・パネル	4	8. シーン・セレクト	17
リア・パネル	5	9. EFFECTS コントロール	18
接続する	5	システム設定	20
専用スタンドに取り付ける	5	1. マスター・チューン	20
1. AC アダプターを接続する	5	2. MIDI チャンネル	20
2. オーディオ機器を接続する	6	3. ローワー MIDI チャンネル	20
3. ペダルを接続する	6	4. ローカル・コントロール	21
4. MIDI 機器やコンピューターなどと接続する	7	5. ベロシティ・カーブ	21
電源を入れる、切る	7	6. オルガン・キー・トリガー	21
1. 電源を入れる	7	7. オート・パワー・オフ	21
2. 電源を切る	7	8. VOX ロゴ LED の点灯 / 消灯	21
音色を選んで演奏する	8	9. ワウ・ペダル・コントロール	22
1. 音色を選ぶ	8	10. ペダル・キャリブレーション	22
2. シーンを選ぶ	8	11. タッチ・センサー・キャリブレーション	22
3. コントローラーを使用する	8	12. 工場出荷時の状態に戻す	22
4. エフェクトをかける	10	13. シーン・データのセーブ	23
シーンを保存する	11	14. シーン・データのロード	23
SCENE 1 ~ 4 ボタンに保存する	11	付録	24
デモ・ソングを聴く	11	故障とお思いになる前に	24
デモ・ソングの再生	11	エラー・メッセージ一覧	24
各部機能の詳細	12	仕様	25
1. マスター・コントロール	12	保証規定（必ずお読みください）	28
2. パート・セレクト	12	アフターサービス	28

このたびはVOX Continental(ヴォックス・コンチネンタル)をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
VOX Continentalは、VOXオルガンをはじめ、トーン・ホイール・オルガン、エレクトリック・ピアノなどの定番のビンテージ・サウンドと、全鍵ステレオ、ノン・ループの大容量サンプルを使用したリッチなグランド・ピアノ・サウンドを搭載しています。その他にもクラビネット、プラス、ストリングス、アナログ・モデリング・シンセサイザーなど、ステージ演奏でよく使われる音色を厳選した、直感的なインターフェイスを備えたステージ・キーボードです。

61鍵と73鍵モデルをご用意しています。
本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

安全上のご注意




ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには


図記号の例


	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。


以下の指示を守ってください


警告




この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性があります。

-  ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。
- 本製品をコンセントの近くに設置し、ACアダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。

-  次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターのプラグをコンセントから抜く。
○ACアダプターが破損したとき
○異物が内部に入ったとき
○製品に異常や故障が生じたとき
修理が必要なときは、お客様相談窓口へ依頼してください。



-  本製品を分解したり改造したりしない。

-  修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
- ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけたりしない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。
コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管をしない。
- 振動の多い場所で使用や保管をしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管をしない。

-  風呂場、シャワー室で使用や保管をしない。
-  雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴がかかる場所で使用や保管をしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。
-  濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります。

-  正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ACアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。
-  長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜く。
電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



- ・ 付属のACアダプターは、他の電気機器で使用しない。付属のACアダプターは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- ・ 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしていない。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- ・ スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
- ・ 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- ・ 不安定な場所に置かない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- ・ 本製品の上ののったり、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- ・ 本製品の隙間に指などを入れない。お客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。
- ・ 地震時は本製品に近づかない。
- ・ 本製品に前後方向から無理な力を加えない。本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が破損したりする恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、USBストレージメディア(市販)に保存しておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

Nutubeとは？

Nutubeは、株式会社コルグとノリタケ伊勢電子株式会社が、蛍光表示管の技術を応用して開発した新しい真空管です。

Nutubeは従来の真空管と同じく、アノード・グリッド・フィラメントの構造を持ち、完全な3極真空管として動作します。また従来の真空管と同様、真空管特有の豊かな倍音やレスポンスを生み出します。

- ▲ 本製品に強い衝撃を加えたとき、高音域のノイズがスピーカー、ヘッドホンなどから聞こえる場合があります。これはNutubeの構造によるもので、故障ではありません。

取扱説明書について

VOX Continentalの取扱説明書は以下のように構成されています。

- ・ VOX Continental取扱説明書(印刷物)(本書)
- ・ VOX Continental MIDI設定ガイド(PDF)
- ・ VOX Continentalボイス・ネーム・リスト(PDF)

VOX Continental取扱説明書(印刷物)(本書)

VOX Continental本体の操作方法を説明しています。はじめに本書をお読みください。

VOX Continental MIDI設定ガイド(PDF)

VOX Continentalが対応するMIDIメッセージ等について説明します。外部MIDI機器やDAWなどとVOX Continentalを使用するときにお読みください。

VOX Continentalボイス・ネーム・リスト(PDF)

VOX Continentalの工場出荷時に収録されている音色等のリストです。

PDFは、以下よりダウンロードしてください。

www.voxamps.com

取扱説明書の表記

マーク ▲, Note, Tip

これらのマークは、順番に、使用上の注意、ノート、アドバイスを表しています。

ディスプレイ表示

取扱説明書に記載されている各種のパラメーターの数値などは表示の一例ですので、本体のディスプレイの表示と必ずしも一致しない場合があります。

各部の主な機能

フロント・パネル

1: マスター・コントロール

全体の音量や、真空管 (Nutube) のドライブ量、鍵盤のダイナミクス感度、鍵盤のオクターブ等を設定します(☞12ページ)。

2: パート・セレクト

演奏する音色パート(ORGAN、E.PIANO、PIANO、KEY/LAYER)を選びます。最大2つのパートをオンにして、同時に鳴らすことができます(☞12ページ)。

3: ORGANパート

CX-3、VOX、COMPACTタイプのオルガン音色のバリエーションを選びます(☞13ページ)。

パーカッション、ビブラート/コーラス、ロータリー・スピーカー・シミュレーションがコントロールできます。

アップパー(上段鍵盤)とローワー(下段鍵盤)の2種類の設定を持ちます。本体鍵盤をアップパーとローワーにスプリット(分割)したり、外部MIDIキーボードをローワーとして使用したりすることができます。

タッチ・センサーでドローバーをコントロールすることができます。

4: E.PIANOパート

ビンテージ・エレクトリック・ピアノの代表的なインとリードと、FMタイプのエレクトリック・ピアノ音色のバリエーションを選びます(☞14ページ)。

5: PIANOパート

グランド、アップライト、エレクトリック・グランド・タイプのピアノ音色のバリエーションを選びます。グランド・ピアノなどでは全鍵ステレオ、ノン・ループの大容量のサンプルを使用

し、繊細かつ力強い、表現力豊かなサウンドが得られます(☞14ページ)。

6: KEY/LAYERパート

クラベネット、プラス、ストリングス、シンセサイザーなどのさまざまなタイプの音色バリエーションを選びます(☞14ページ)。

タッチ・センサーでアンプEGやフィルター、LFOを変化させることができます。

7: タッチ・コントロール

9つのLED付きのタッチ・センサーにタッチして、複数の設定を同時にコントロールします。

オルガンのドローバーや、KEY/LAYERのフィルターやEG、LFO、また全体的なEQをコントロールします(☞15ページ)。

8: シーン・セレクト

シーンを選びます。シーンは16個あり、気に入ったバリエーションやエフェクト設定を保存しておき、ライブなどのパフォーマンスで瞬時に呼び出すことができます(☞17ページ)。EXITボタンはシステム設定をするときにも使用します。

9: EFFECTSコントロール

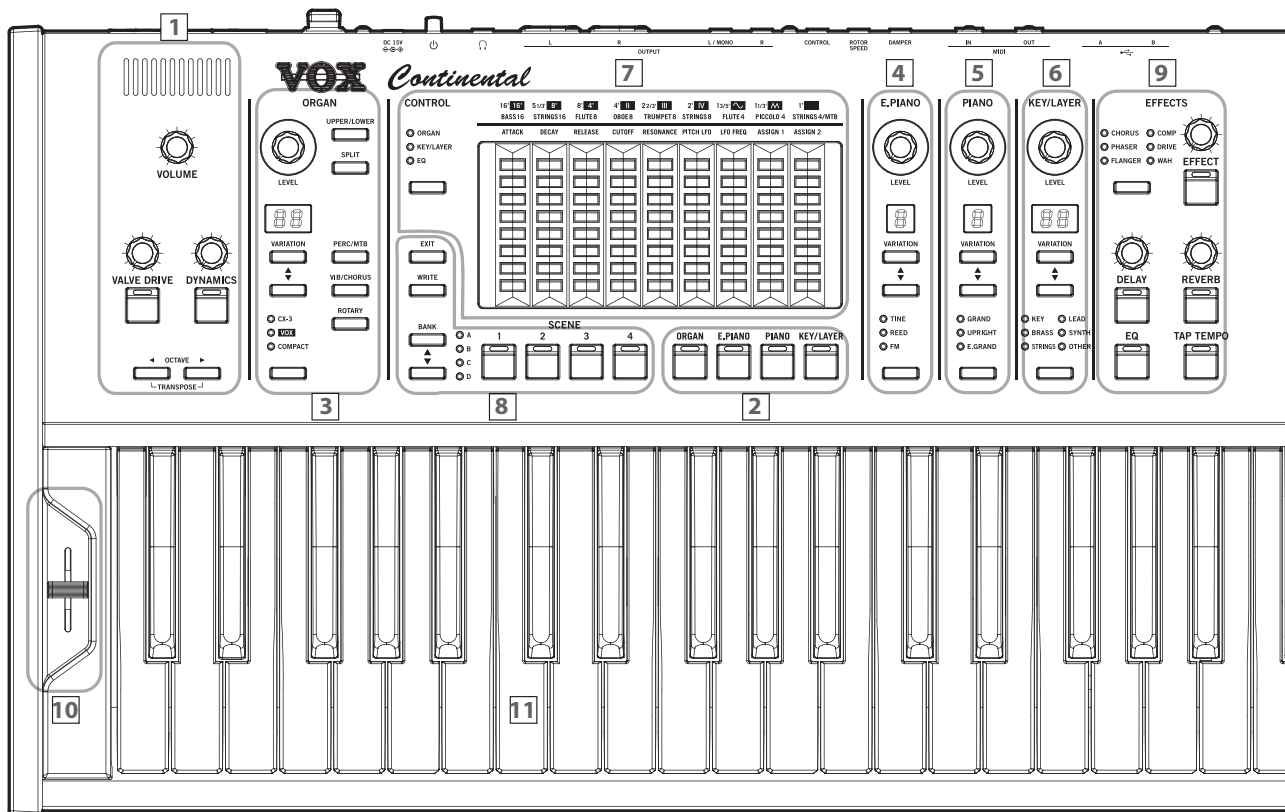
コーラスやフェイザーなどを含むEFFECT(エフェクト)、DELAY(ディレイ)、REVERB(リバーブ)の3系統のエフェクトと、EQ(イコライザー)を設定します(☞18ページ)。

10: ベンド・レバー

オルガンのロータリー・スピーカー・シミュレーションのスピード切り替えや、エレクトリック・ピアノのトレモロ・オン/オフ、KEY/LAYERバリエーションのピッチ・アップ/ダウンをコントロールします(☞9ページ)。

11: 鍵盤

VOX Continentalの鍵盤は、ベロシティ対応、アフタータッチ非対応です。ウォーターフォール鍵盤を採用し、グリッサンド、トリル等の奏法をビンテージのトーン・ホイール・オルガンのように演奏できます(☞9ページ)。



リア・パネル

1: 電源

電源を入れたり、切ったりします。電源を切るときはボタンを長押しします。

- 「1. ACアダプターを接続する」(☞5ページ)
- 「電源を入れる、切る」(☞7ページ)

電源 ボタン

DC 15V 端子

コード・フック

2: OUTPUT

外部オーディオ機器を接続します。

- 「2. オーディオ機器を接続する」(☞6ページ)

OUTPUT L/MONO、R 端子

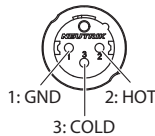
(6.3mm モノラル・フォン・ジャック、不平衡)

OUTPUT L、R 端子

(XLR-3-32、平衡)

LIFT-GND スイッチ

ヘッドホン端子 (6.3mm ステレオ・フォン・ジャック)



3: PEDAL

VOX Continentalの各ペダル端子に、対応するペダルを接続して、足元でサウンドをコントロールします。

- 「3. ペダルを接続する」(☞6ページ)

⚠ 電源を入れるとき、またはペダルを接続するときは、ROTOR SPEED 端子と DAMPER 端子に接続したペダルを踏まないでください。このとき VOX Continental はペダルの極性とペダルの状態をオフとして認識します。

CONTROL 端子、ROTOR SPEED 端子、DAMPER 端子

4: MIDI

外部MIDI機器と本機を接続して、MIDI データを送受信します。ORGANパートでは、外部MIDIキーボードを接続して、ローワー(下段鍵盤)として使用することができます。

- 「3. ローワーMIDIチャンネル」(☞20ページ)

MIDI IN 端子、MIDI OUT 端子

5: USB

USB A 端子

USBフラッシュ・メモリーなどのUSBストレージ・デバイス(市販)を接続して、シーン・データをセーブ/ロードします。

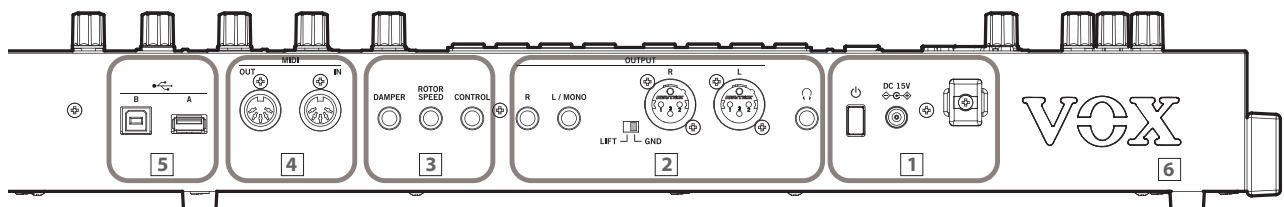
- 「13. シーン・データのセーブ」(☞23ページ)
- 「14. シーン・データのロード」(☞23ページ)

USB B 端子

Windows、MacのUSB A端子と本機を接続して、MIDIデータを送受信します。

6: VOXロゴ

「8. VOXロゴLEDの点灯/消灯」(☞21ページ)



接続する

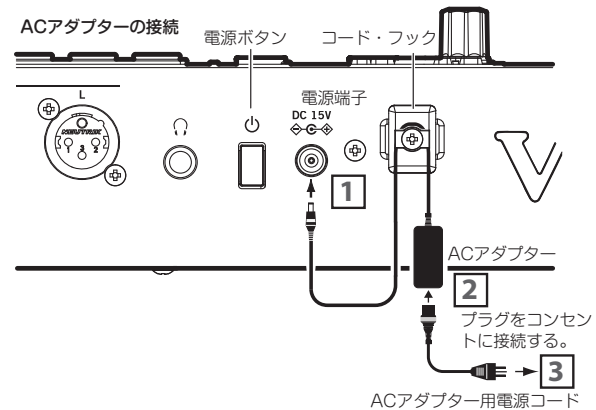
専用スタンドに取り付ける

専用のキーボード・スタンド ST-Continental に VOX Continentalを取り付けてご使用になるときは、本機からACアダプターやコードを取り外し、スタンド同梱の「ST-Continental Assembly Guide」に従って設置してください。

1. ACアダプターを接続する

⚠ 必ず付属のACアダプターをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障の原因となります。

- 1 付属 AC アダプターの DC プラグを本機リア・パネルの DC 15V端子に接続します。
- 2 電源コードのコネクターをACアダプターに接続します。



- 3 電源コードのプラグをコンセントに接続します。

⚠ 電源は必ずAC100Vを使用してください。

⚠ 感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行ってください。

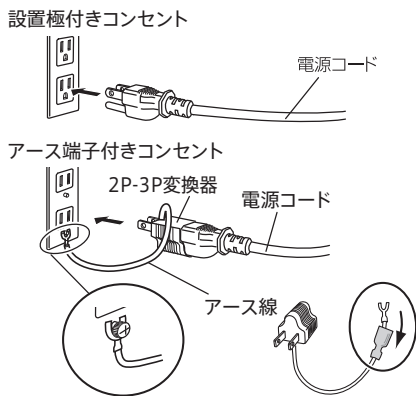
- 4 接地コンセントに接続する場合は、直接プラグをコンセントに差し込んでください。

アースターミナル付きコンセントに接続する場合は、2P-3P変換器をプラグに付け、アース線を接続した後にコンセントに差し込んでください。

警告: アースターミナル付きコンセントは、必ずアース端子を先に接続してからコンセントにプラグを差し込んでください。コンセントから外す場合は、必ずプラグを先に抜いてからアースを外してください。

2P-3P変換器のアース線のU字端子にカバーが付いている場合は、カバーをはずして使用してください。

接続方法が分からないときは、お客様相談窓口にご相談ください。



5 プラグの抜け、破損防止のために、AC アダプターのコードを本機のコード・フックに固定します。

2. オーディオ機器を接続する

VOX Continentalはスピーカーを内蔵していません。音を出して演奏をお楽しみいただくためには、パワード・モニター・スピーカーやステレオ・セットなどの音響機器、またはヘッドホンをご用意ください。

パワード・モニター・スピーカーやミキサーを接続する

VOX Continentalのオーディオ出力は、CDシステムなどの一般的な家庭用音響機器よりも高い信号レベルに設定されています。そのため、過大な音量で演奏するとスピーカーや機器を破損することがあります。音量には十分ご注意ください。

- 1 接続するすべての機器の音量を絞り、電源を切ります。
- 2 VOX ContinentalのOUTPUT L/MONO、R端子、またはOUTPUT L、R端子(XLR)をパワード・モニター・スピーカーやミキサーなどのINPUT端子へ接続します。

OUTPUT L/MONO、R端子とL、R端子(XLR)は同じ信号を出力します。同時に使用することができます。

VOX ContinentalのL、R端子(XLR)をミキサー等に接続する場合、ミキサー等のファンタム電源を必ずオフにしてください。VOX Continentalを破損する恐れがあります。

Note: モノラルで使用するときには、L/MONO端子に接続します。

Note: LIFT-GNDスイッチの設定について
LIFT-GNDスイッチの設定は、通常GND側でお使いください。LIFT側にするとLEFT、RIGHT端子(XLR)のGNDは、本体のグラウンドから切り離されます。グラウンドのループ等によるノイズが発生したとき、LIFT側にすることでノイズが解消されることがあります。

ヘッドホンを接続する

- ヘッドホンの標準プラグをVOX Continentalのヘッドホン端子に接続します。

VOX Continentalのヘッドホン端子は、OUTPUT端子の出力と同じ信号を出力します。

ヘッドホンの音量はVOLUME ノブで調節します。

Note: ヘッドホン端子にヘッドホンが接続された状態でも、OUTPUT端子からの出力はオフになりません。

3. ペダルを接続する

VOX Continentalの各ペダル端子に、対応するペダルを接続して、足元でサウンドをコントロールします。

Note: 各ペダル端子は、工場出荷時に標準的な感度に調整されています。お使いのペダルのかかり具合が適切でないときには感度を調整してください。(☞「10. ペダル・キャリブレーション」22ページ)

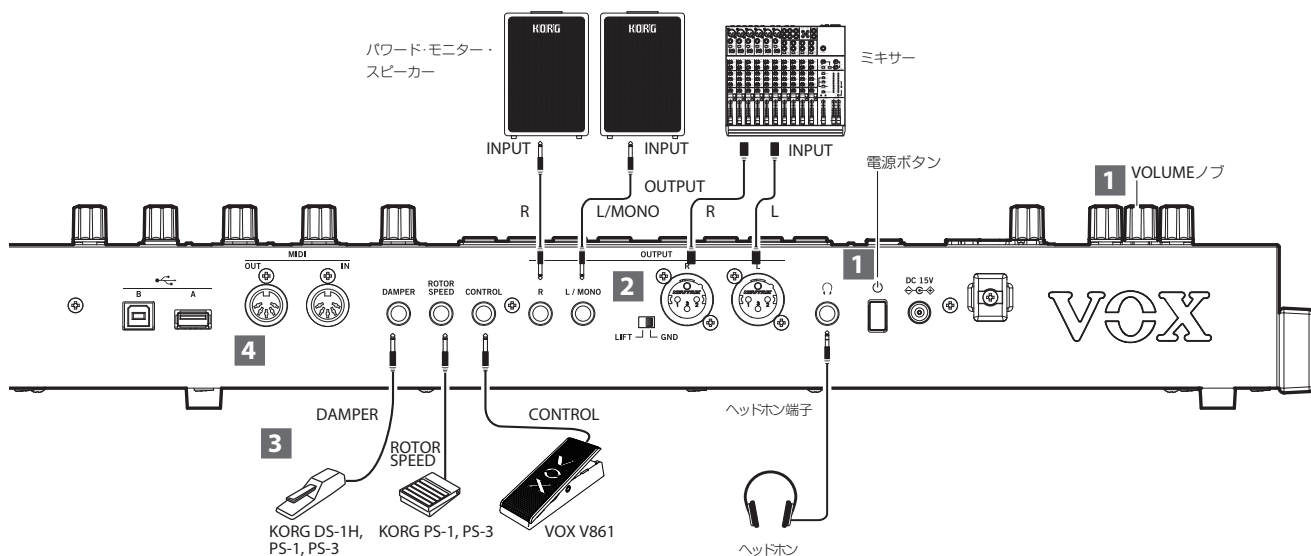
ペダルで音量(またはワウ)を調節する

- VOX ContinentalのCONTROL端子と、付属ペダルのEX-PRESSION端子を接続ケーブルで接続します。

ペダルを踏み込む量によって、音量を調節します。ORGANパートのバリエーションは、ロータリー・スピーカー入力前段の音量がコントロールされます。ドローバー方式のオルガンのエクスペッション・ペダルの効果を再現しています。

また、ワウ・エフェクトを使用時はワウがコントロールされます(初期設定)。

Note: ワウ・エフェクトを使用時に、ワウをコントロールするか、音量をコントロールするかを設定できます。(☞「9. ワウ・ペダル・コントロール」22ページ)



ペダルでロータリー・スピードを切り替える

- ROTOR SPEED端子にペダル・スイッチ(別売りコルグPS-1、PS-3)を接続します。

ペダルを踏むと、ORGANパートのロータリー・スピーカー・シミュレーションのスピードが切り替わります。

ペダルでダンパーをコントロールする

- DAMPER 端子にダンパー・ペダル(別売りコルグ DS-1H)またはペダル・スイッチ(別売りコルグPS-1、PS-3)を接続します。

ペダルを踏むと、打鍵した音が伸びて、鍵盤から手を離しても音が持続します。

Tip: コルグDS-1Hでは、ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させるハーフ・ダンパー機能が利用できます。

4. MIDI機器やコンピューターなどと接続する

外部のMIDIキーボードやシーケンサーで、VOX Continentalの音源を発音させたり、VOX Continentalの鍵盤やタッチ・センサーなどで外部MIDI音源をコントロールしたりすることができます。

MIDIに関する接続は「VOX Continental MIDI設定ガイド」(PDF)を参照してください。

外部MIDIキーボードをオルガンのロワー(下段鍵盤)として使用する

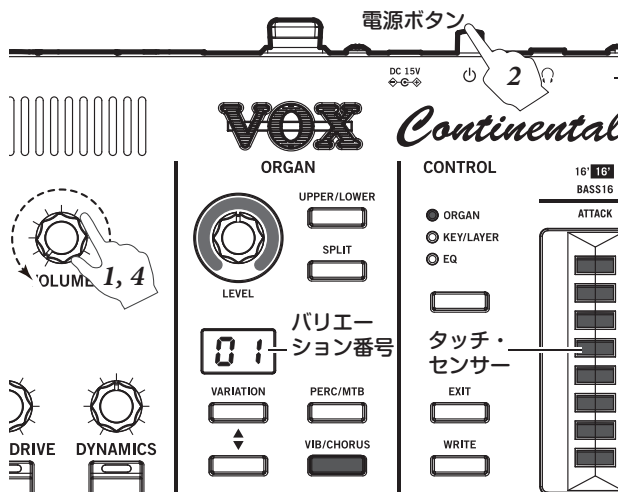
ORGANパートのバリエーションは、アッパー(上段鍵盤)とロワー(下段鍵盤)の2種類の設定を持っています。外部MIDIキーボードをロワー用として使用することができます。(☞p.20)

電源を入れる、切る

1. 電源を入れる

- 1 VOX ContinentalのVOLUMEノブを左に回しきり、音量を最小にします。

接続しているパワード・モニター・スピーカーなどの外部出力機器の音量が絞られ、電源が切られていることを確認します。



- 2 VOX Continentalの電源ボタンを押します。
タッチ・センサーのLEDがすべて点灯した後、VARIATIONディスプレイに番号が表示されたら、演奏できる状態になります。
- 3 VOX ContinentalのOUTPUT端子に接続したパワード・モニター・スピーカーなどの外部出力機器の電源を入れます。
- 4 VOX ContinentalのVOLUMEノブおよび外部機器のボリュームを操作して、最適な音量に調節します。

2. 電源を切る

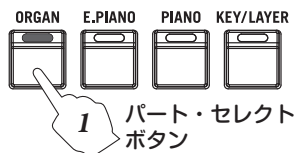
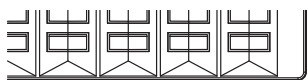
- ⚠ 保存していないシーンは電源を切ると消去されますので、事前に保存しておいてください。(☞11ページ)
- 1 パワード・モニター・スピーカーなどの外部出力機器のボリュームを下げて、電源を切ります。
 - 2 VOX ContinentalのVOLUMEノブを左に回しきります。
 - 3 VOX Continentalのリア・パネルの電源ボタンを長押しします。
PIANOパートとKEY/LAYERパートのVARIATIONディスプレイにOFFが表示されたら、電源ボタンを離します。
- ⚠ OFF表示中は本機の設定を保存しています。OFF表示が消えるまで絶対にACアダプターを抜かないでください。故障の原因になります。
 - ⚠ VOX Continentalは鍵盤やノブ、ボタンを一定時間操作しないと電源が切れます。この機能を「オート・パワー・オフ」といい、工場出荷時は4時間に設定されています。この設定は変更することができます。(☞21ページ)

音色を選んで演奏する

1. 音色を選ぶ

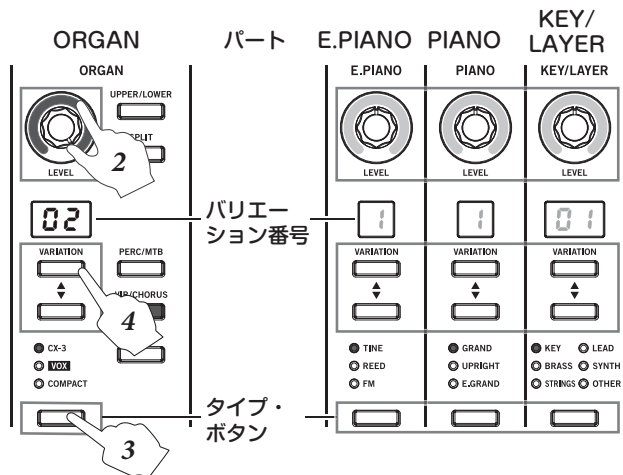
VOX Continentalには、ORGAN、E.PIANO、PIANO、KEY/LAYERの4つの音色パートがあり、これらのパートのバリエーションを選び、演奏します。

1 パート・セレクト・ボタンを押して、演奏するパートをオンにします。(ボタン点灯)



2つのパート・セレクト・ボタンを同時に押すと(ボタン点灯)、2つの音色を重ねるレイヤー・サウンド(例:ピアノとストリングスなど)にすることができます。

2 各音色パートのLEVELノブを回して、音量を調節します。全体の音量はマスター・コントロールのVOLUMEノブで調節します。



3 各音色パートのタイプ・ボタンを押して、音色タイプを選びます。

該当するタイプのLEDが点灯します。

たとえばORGANパートでは以下のタイプが選べます。

CX-3: トーンホイール・オルガン

VOX: トランジスター・オルガン

COMPACT: トランジスター・オルガン

その他のパートについては以下を参照してください。

E.PIANOパート(☞14ページ)

PIANOパート(☞14ページ)

KEY/LAYERパート(☞14ページ)

4 VARIATION ▲、▼ボタンを押して、バリエーションを選びます。

VARIATION ディスプレイにバリエーション番号が表示されます。

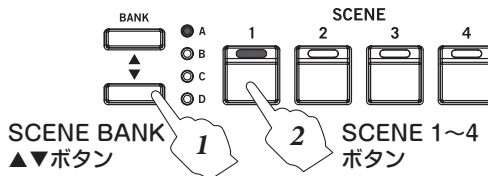
Note: パートやバリエーションを切り替えても、EFFECTSコントロールやオクターブ、トランスポーズの設定は変わりません。

2. シーンを選ぶ

シーンとは、自分のよく使うバリエーションやエフェクトの設定などを保存しておき、その設定を瞬時に呼び出すものです。シーンは16個(4シーン×4バンク)あります。

Tip: 工場出荷時には、あらかじめ各シーンが用意されています。これらのシーンは上書きできます。

1 BANK ▲、▼ボタンを押して、バンク(A~D)を選びます。(A~D LED点灯)



2 SCENE 1~4 ボタンを押して、シーン(1~4)を選びます。

保存されたシーンが呼び出され、その音色を演奏することができます。

Note: パートのバリエーションやエフェクト、オクターブなどの設定を変更すると、現在選択されているSCENEボタンが点滅します。点滅しているSCENEボタンを押すと、変更は取り消され、保存されていた状態に戻ります。

Note: シーンの保存方法は、11ページを参照してください。シーンにはEQなどの設定は保存されません。

3. コントローラーを使用する

タッチ・センサー

タッチ・センサーは、ORGANパートではドローバーを調節します。KEY/LAYERパートではフィルターやEG、LFOを調節します。

また全体のオーディオ出力の特性を、9バンド・イコライザーで調節します。

オルガンのドローバーを調節する

1 パート・セレクト・ボタンのORGANをオンにします。

2 ORGANタイプ・ボタンでオルガン・タイプを選びます。

Note: オルガン・タイプごとにドローバーの動作が異なります。(☞p.15)

必要に応じて、ドローバーを調節する元となるバリエーションを選びます。VARIATION ▲、▼ボタンで選びます。ドローバー設定はそれぞれに保存されている設定に切り替わります。

3 UPPER/LOWER ボタンを押して、アッパー(上段鍵盤)またはロワー(下段鍵盤)の演奏する側に切り替えます。

アッパー時は消灯、ロワー時は点灯します。

Note: UPPER/LOWER ボタンは、オルガン・タイプがCX-3またはVOXのときに使用できます。

Tip: スプリットおよび外部MIDI鍵盤をロワーとして使用するときのコントロールについては20ページを参照してください。

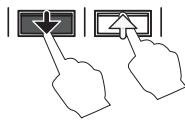
4 CONTROLボタンでORGANを選びます。

Tip: 各タッチ・センサーの上にORGANタイプ(CX-3、VOX、COMPACT)ごとのドローバー名が表示されています。(次ページ下図右上参照)

5 タッチ・センサーを指でタッチして、各ドローバーを操作します。同時に複数のドローバーをコントロールすることができます。

Tip: LED上で指を上下させるとオン/オフが設定しやすくなります。

Tip: オルガン・タイプCOMPACTでは、各トーンのオン/オフ・スイッチとして動作します。各バーの下半分をタッチするとオンになり、上半分をタッチするとオフとなります。(下図右側参照)



Note: 変更したタッチ・センサー設定は、同じ部分のタイプやバリエーションを切り替えると、各バリエーションの設定が呼び出され、切り替わります。また、電源を切ると変更していたタッチ・センサー設定は消えてしまいます。

Note: 調節したタッチ・センサー設定の音色を保存したいときは、シーンに保存してください(☞11ページ)。

Note: バリエーション自体に保存することはできません。

KEY/LAYERのフィルターやEG、LFOを調節する

- 1 パート・セレクト・ボタンのKEY/LAYERをオンにします。
- 2 KEY/LAYERタイプ・ボタンでタイプを選びます。そして、VARIATION ▲、▼ボタンで調節するバリエーションを選びます。
- 3 CONTROLボタンでKEY/LAYERを選びます。
- 4 タッチ・センサーを指でタッチして、それぞれを調節します。同時に複数のセンサーをコントロールすることができます。

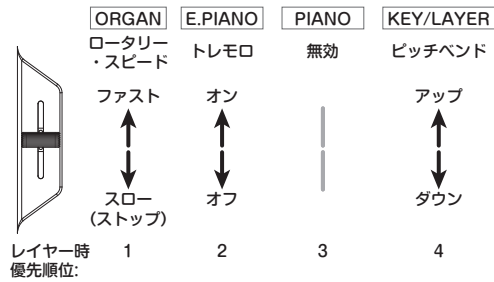
Tip: 各タッチ・センサーの上にATTACK、DECAYなどの機能名が表示されています。USER1、2はバリエーションごとで異なります。

Note: 調節したタッチ・センサー設定の音色を保存したいときは、シーンに保存してください(☞11ページ)。

バンド・レバー

バンド・レバーを上または下に動かすことによって、音色を変化させます。手を離すとレバーは中央に戻ります。

どのパートがオンになっているかによって、機能が変わります。



ORGANパート:ロータリー・スピーカー・シミュレーションのスロー(ストップ)/ファストを切り替えます。

ROTARY ボタンをオン(ボタン点灯)にして、ロータリー・スピーカー・シミュレーションをオンにしてください。

E.PIANOパート:トレモロ・オン/オフを切り替えます。

PIANOパート:無効。

KEY/LAYERパート:ピッチをアップ/ダウンさせます。

Note: 複数のパートがオンになっているときは(レイヤー)、次の順番で優先されます。

1. ORGAN、2. E.PIANO、3. PIANO、4. KEY/LAYER

PIANOパートとKEY/LAYERパートをレイヤーにしている場合、バンド・レバーは無効になります。

鍵盤

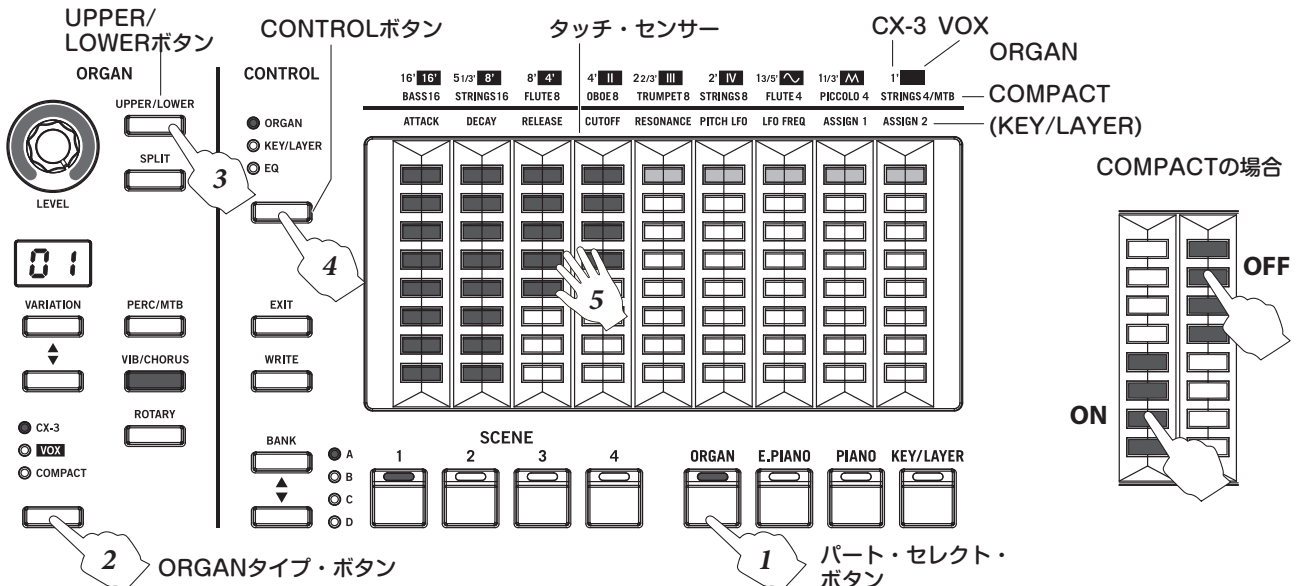
VOX Continentalの鍵盤は、ベロシティ対応、アフタータッチ非対応です。ウォーターフォール鍵盤を採用しています。

オルガン・タイプ以外の音色では、打鍵の強さ(ベロシティ)で、音量やEGの速さや感度などをコントロールできますので、アタック時の音のキャラクターなどを変化させることができます。

また、打鍵の強さ(ベロシティ)による音量や音色の変化具合を、DYNAMICS ノブで即座に調節することができます(☞12ページ)。

オルガン・タイプの音色では、鍵盤を浅い位置で発音させるか、深い位置で発音させるかを設定できます。グリッサンド、トリル等の奏法をビンテージのトーン・ホイール・オルガンのように演奏できます(☞21ページ)。また、鍵盤をアップ(上段鍵

オルガンのドローバーを調節する



日本語

盤)とロー(下段鍵盤)にスプリットさせたり、外部MIDIキーボードをロー用として組み合わせたりすることもできます。その他、鍵盤のオクターブ・アップ/ダウン(☞12ページ)や、移調(☞12ページ)することができます。

CONTROL、ROTOR SPEED、DAMPER ペダル

市販のペダルを接続して、サウンドをコントロールします。(☞「3. ペダルを接続する」6ページ)

4. エフェクトをかける

各パートの音色には、Nutube真空管によるドライブ量の調節と、EFFECT、DELAY、REVERBの3系統のエフェクト、EQを使用することができます。これらのエフェクトは各パートの音色全体にかかります。

各パートのバリエーションを切り替えても、これらの設定は変わりません。EFFECT、DELAY、REVERBの設定はシーンに含まれ、シーンを切り替えると一緒に切り替わります。VALVE DRIVE、EQは切り替わりません。

また、ORGANパートの音色には、別途ロータリー・スピーカー・シミュレーションや、ビブラート/コーラスも使用できます。

EFFECT、DELAY、REVERB をかける

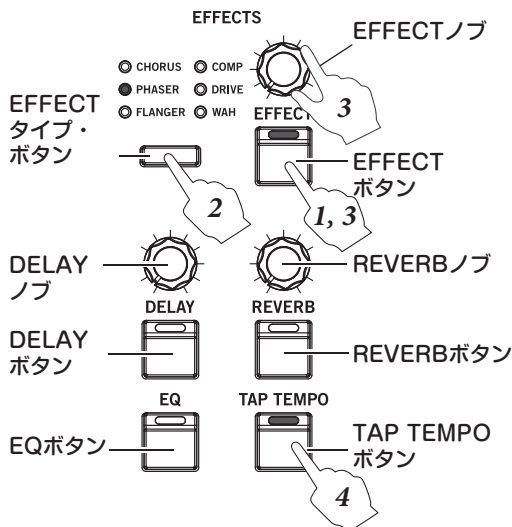
EFFECTは、6タイプのエフェクトから1つを選んで効果をかけます。音を強く歪ませたり、ゆらしたり、エフェクトによっては設定次第で、元の音色とは全く違う音にしたりすることもできます。

DELAY(ディレイ)は一定の時間遅らせた音を加えます。REVERB(リバーブ)は残響をつけ、音に空間的な広がりを与えます。DELAYは4タイプ、REVERBは5タイプのエフェクトから1つを選んで効果をかけます。

1 効果をかけるエフェクトのボタンを押します。(ボタン点灯)

たとえば、PHASERを使用したいときはEFFECTタイプ・ボタンを押します。

ディレイをかけたいときはDELAYボタンを、リバーブをかけたいときはREVERBボタンを押します。

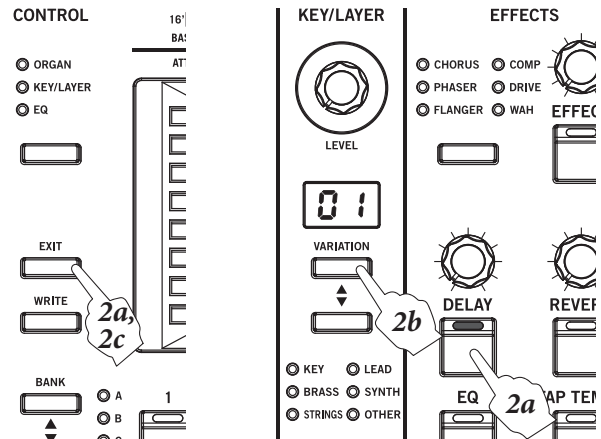


2 エフェクト・タイプを選びます。

EFFECTは、EFFECTタイプ・ボタンを押して選びます。

Note: エフェクトを切り替えると、各エフェクトの初期値が適用されます。

- DELAY は、(a)EXIT ボタンと DELAY ボタンを押します。(b)KEY/LAYER ▲、▼ ボタンを押してエフェクト・タイプを選びます。タイプがKEY/LAYERディスプレイに表示されます。(c)EXIT ボタンを押して、タイプ選択から抜けます。



- REVERB は、(a)EXIT ボタンと REVERB ボタンを押します。(b)KEY/LAYER ▲、▼ ボタンを押してエフェクト・タイプを選びます。タイプがKEY/LAYERディスプレイに表示されます。(c)EXIT ボタンを押して、タイプ選択から抜けます。

3 EFFECT、DELAY、REVERBノブを回して、各エフェクトの効果の深さなどを調節します。各エフェクト・ボタンを押しながら、上記のノブを回すと、フィードバック量などが調節できます。

エフェクトごとに効果が異なります。(☞18ページ)

4 ディレイ・タイムなどの速さは、設定したいテンポでTAP TEMPOボタンを複数回押します。

エフェクトごとに効果が異なります。

イコライザー(EQ)で音質を調節する

EQはオーディオ出力全体の特性を調節します。各周波数帯域の音質を個別に調節し、サウンドを整えたり、音作りをしたりします。また、ライブ会場やスピーカーの音響特性に応じて調節するときにも使用します。

1 EQボタンを押してオンにします。(ボタン点灯)

2 CONTROLボタンを押して、EQを選びます。(LED点灯)

3 タッチ・センサーに9バンドのグラフィック・イコライザーが表示されます。

4 タッチ・センサーにタッチして調節します。

0[dB]のとき中央の2つのLEDが薄く点灯します。

シーンを保存する

SCENE 1～4ボタンに保存する

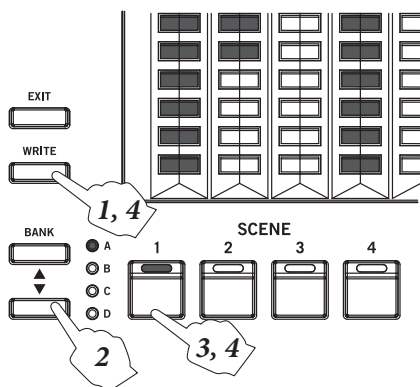
VOX Continental上での音色設定はシーンとして保存できます。シーン数は合計16個(4シーン×4バンク)です。

パート・セレクト・ボタン、各音色パート、タッチ・センサー、EFFECTコントロール(EQを除く)の各設定が保存されます。

Note: シーンに以下の設定は保存されません。

EQ、VOLUME ノブ、VALVE DRIVE ノブとボタン、DYNAMICSノブとボタン、CONTROLボタン、ベンド・レバー

- 1 WRITEボタンを押します。
SCENE 1～4ボタンが点滅します。
- 2 BANK▲、▼ ボタンを押して、シーンを保存させるバンクを選びます。
A～D LEDが点灯します。
- 3 SCENE 1～4ボタンを押して、登録させるシーンを選びます。
押したSCENEボタンだけが点滅します。
 - EXITボタンを押すと、保存操作がキャンセルされます。
- 4 同じSCENE 1～4ボタンを再度押すと、指定したバンクのシーンに音色が保存されます。
保存したシーンのSCENE 1～4ボタンが点灯します。
WRITEボタンを押すことによっても保存できます。



シーンはUSBストレージ・デバイス(市販)に保存することができます。(☞23ページ)

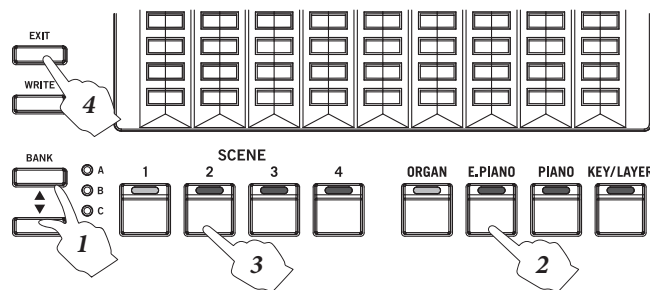
デモ・ソングを聴く

デモ・ソングの再生

VOX Continentalは、各音色にあった16曲のデモ・ソングを収録しています。

オルガン音色:4、E.ピアノ音色:4、ピアノ音色:4、キーボード・レイヤー音色:4

- 1 BANK▲、▼ボタンを同時に長押しします。
デモ・ソングが再生を開始したら、ボタンを離します。
ORGANパートの1曲目が再生されます(SCENE 1ボタンとORGANボタン点滅)。
- 2 パート・セレクト・ボタンORGAN、E.PIANO、PIANO、KEY/LAYERで、聴きたい音色のデモ・ソングを選びます。
たとえばピアノのデモ・ソングを聴きたいときは、PIANOを押します。ピアノ音色の1曲目が再生されます(PIANOとSCENE 1ボタン点滅)。
- 3 SCENE 1～4ボタンで、音色ごとの4曲のデモ・ソングを選びます(押されたボタン点滅)。
現在再生中の曲が終了すると、次の曲が自動で再生されます。すべての曲を順番にエンドレスで再生します。
 - 点滅している(再生中)のSCENEボタンを押すと、現在再生中の曲が先頭から再生されます。
 - 別のSCENEボタンを押すと現在再生中の曲が停止し、新しく選択したSCENEボタンの曲が再生されます。
- 4 EXITボタンで、通常の演奏モードに戻ります。
デモ・ソング再生中の場合は、曲が停止します。



各部機能の詳細

1. マスター・コントロール



1: VOLUME ノブ

OUTPUT 端子とヘッドホン端子から出力する音量を調節します。

2: VALVE DRIVE ノブ

真空管回路のドライブ量を調節します。

Nutube による真空管の独特で豊かな倍音とスムーズな歪み感が加わり、存在感のあるサウンドを生み出します。やわらかい音圧感から激しい歪みまで、幅広い音色変化が可能です。

3: VALVE DRIVE ボタン

真空管回路をオン/オフします。

オンにすると、信号経路の途中に真空管回路が挿入されます。オフにすると完全に切り離されます。

Note: VALVE DRIVE の設定は、シーンに保存されません。電源を入れたときには、常にオフになります。オンにするとノブの位置での効果がかかります。

4: DYNAMICS ノブ

本体鍵盤を打鍵する強さ(ペロシティ)による音量や音色の変化具合を調節します。

- 左に回すほど、打鍵の強さに対して弱めな音になります。ソロ・ピアノやバンド・アンサンブルでピアノシモからフォルテシモを抑揚をつけて演奏するのに向きます。
- 右に回すほど、打鍵の強さに対して強めな音になります。バンド・アンサンブルでバックングやソロの音を全体的に際立たせて演奏するのに向きます。
- センター位置では効果がかかりません。

レイヤー・サウンドやスプリット・サウンドでは、両方のバリエーションに効果がかかります。

Note: バリエーションによって、コントロールできる効果は異なります。

Note: 設定したペロシティ・カーブ(21 ページ)に対して効果がかかります。

5: DYNAMICS ボタン

DYNAMICS ノブによるダイナミクス効果をオン/オフします。

Note: ダイナミクス設定は、シーンに保存されません。電源を入れたときには、常にオフになります。オンにするとノブの位置での効果がかかります。

6: OCTAVE ◀▶ ボタン (TRANSCOPE ボタン)

オクターブ・アップ/ダウン

鍵盤を押さえたときに、実際に演奏されるピッチ(音の高さ)を1オクターブ単位で上下させます。±2オクターブの範囲で設定できます。

- オクターブを上げるには▶ボタンを押します。オクターブを下げるには◀ボタンを押します。
- 1オクターブ・アップ: ▶ボタンがゆっくり点滅
- 2オクターブ・アップ: ▶ボタンが早く点滅
- 1オクターブ・ダウン: ◀ボタンがゆっくり点滅
- 2オクターブ・ダウン: ◀ボタンが早く点滅

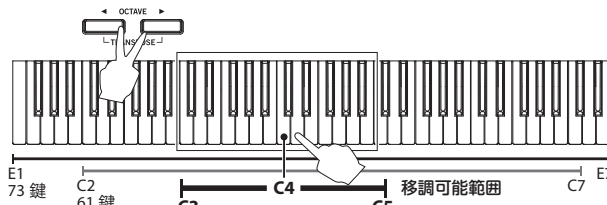
Note: パートのバリエーションを切り替えても、この設定は変わらず維持されます。

トランスポーズ(移調)する

鍵盤を押さえたときに、実際に演奏されるピッチ(音の高さ)を半音単位で上下させます。演奏する鍵盤の位置を変えないままに移調したいときに使用します。±1オクターブの範囲で移調できます。

- OCTAVE ◀ボタンと▶ボタンを同時に押しながら、C3~B3、C#4~C5の鍵盤を押します。
- ORGAN 部分の VARIATION ディスプレイに、トランスポーズ量(-12~0~12)が一定時間、点滅で表示されます。-(マイナス)は、「.]」(ドット)で表示されます。トランスポーズが設定されると、OCTAVE ◀▶ボタンが点灯します。
- トランスポーズを解除するには、OCTAVE ◀ボタンと▶ボタンを同時に押しします。

OCTAVE ◀▶ボタンが消灯します。



Note: パートのバリエーションを切り替えても、この設定は変わらず維持されます。

2. パート・セレクト

1: ORGAN ボタン

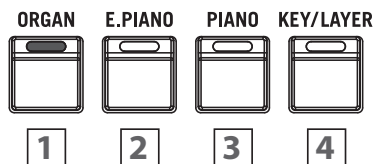
2: E.PIANO ボタン

3: PIANO ボタン

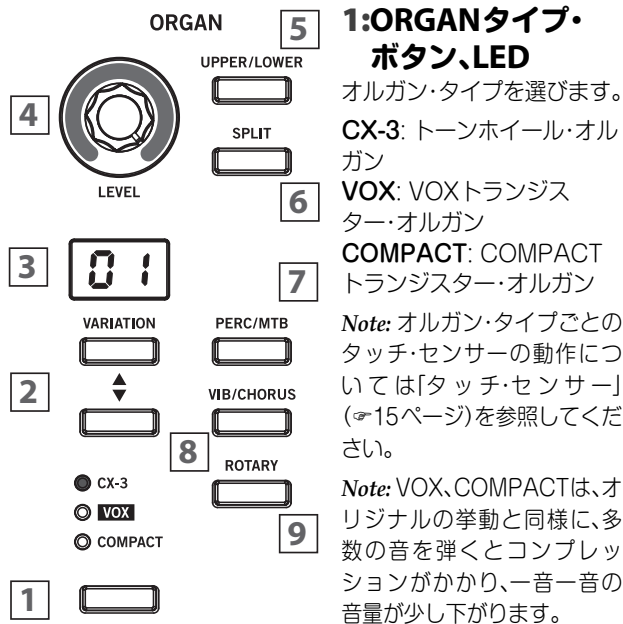
4: KEY/LAYER ボタン

演奏する音色パートを選びます。VOX Continentalは、オルガン、エレクトリック・ピアノ、アコースティック・ピアノ、キーボード/レイヤーの4つの音色パートがあります。

- 発音させるパート・セレクトのボタンを押します(ボタン点灯)。
- 2つのボタンを同時に押すと(ボタン点灯)、鍵盤演奏時に2つの音色が同時に鳴ります(レイヤー)。



3. ORGANパート



1: ORGANタイプ・ボタン、LED

オルガン・タイプを選びます。

CX-3: トーンホイール・オルガン

VOX: VOXトランジスター・オルガン

COMPACT: COMPACTトランジスター・オルガン

Note: オルガン・タイプごとのタッチ・センサーの動作については「タッチ・センサー」(☞15ページ)を参照してください。

Note: VOX、COMPACTは、オリジナルの挙動と同様に、多数の音を弾くとコンプレッションがかかり、一音一音の音量が少し下がります。

2: VARIATION ▲、▼ボタン

3: VARIATIONディスプレイ

ORGANタイプ・ボタンで選択したオルガンのバリエーションを選びます。

バリエーションの番号が、VARIATIONディスプレイに表示されます。

Note: ORGANパートがオフのとき、VARIATIONディスプレイが薄く点灯します。

4: LEVELノブ

ORGANパートの音量を設定します。音量レベルがノブの周りにLEDで表示されます。

5: UPPER/LOWERボタン

オルガン音色は、アップパー(上段鍵盤)とローワー(下段鍵盤)の2種類の設定を持っています。

- UPPER/LOWERボタンを押して、鍵盤とドロワー(タッチ・センサー)を、アップパーまたはローワーのどちらに適用するかを切り替えます。

UPPER/LOWERボタン

点灯: ローワー用に動作します。

消灯: アップパー用に動作します。

Note: UPPER/LOWERボタンは、オルガン・タイプがCX-3またはVOXのときに有効です。

スプリット・オフ(本体鍵盤をスプリットしないで使用する場合)

UPPER/LOWERボタンを押すと、本体鍵盤全体とドロワーが、アップパー(ボタン消灯)、またはローワー(ボタン点灯)に切り替わります。

スプリット・オン(本体鍵盤をアップパーとローワーにスプリットして使用する場合)

スプリット・オン時(次の「6 SPLIT ボタン」参照)、本体鍵盤は、スプリット・ポイントを境にして、高音側がアップパーに、低音側がローワーになります。

このときUPPER/LOWERボタンを押すと、ドロワーがアップパー(ボタン消灯)またはローワー(ボタン点灯)に切り替わります。本体鍵盤は影響を受けません。

本体鍵盤をアップパー、外部MIDIキーボードをローワーとして使用する場合

UPPER/LOWERボタンを消灯させて、本体鍵盤およびドロワーをアップパーに設定します。

外部MIDIキーボードのローワーのドロワーをコントロールするときは、EXITボタンを押しながら、UPPER/LOWERボタンを押します(ボタン点滅)。ローワーのドロワーが表示され、コントロールすることができます。

Note: 本体鍵盤をアップパー側、接続した外部MIDIキーボードをローワー側として使用する設定については、「3. ローワーMIDIチャンネル」(☞20ページ)を参照してください。

6: SPLITボタン

オルガンのアップパー(上段鍵盤)とローワー(下段鍵盤)を、本体鍵盤の高音側と低音側でスプリット(分割)します。

Note: SPLITボタンは、オルガン・タイプがCX-3またはVOXのときに有効です。

1 ORGANパートで、オルガン・タイプ、バリエーションを選びます。

2 SPLITボタンを押します(ボタン点灯)。

本体鍵盤の高音側にアップパー(上段鍵盤)が、低音側にローワー(下段鍵盤)が配置されます。

3 スプリット・ポイント(分割点)を設定するには、SPLITボタンを押しながら、鍵盤を押します。

このとき押した鍵盤がアップパー側の一番下の音に設定されます。

7: PERC/MTBボタン

パーカッションのオン/オフ

パーカッションのオン/オフを切り替えます。

Note: オルガン・タイプがCX-3のときに有効です。

オン時、ピッチの付いたアタック音を出し、サウンドにメリハリがつけます。レガートで弾いたときは、最初の打鍵時だけアタック音が加わります。

Note: アップパー鍵盤にのみ効果が加わります。

MTBのオン/オフ

MTB (Multi-Tone-Booster)のオン/オフを切り替えます。

Note: オルガン・タイプがCOMPACTのときに有効です。

オン時、トーン・ストップの設定が無効になり、マルチ・トーン・ブースターによる丸くて甘い(mellow)サウンドから、独特な鋭いサウンドが得られます。

タッチ・センサーの動作については「3 Compact」(☞16ページ)を参照してください。

8: VIB/CHORUSボタン

ビブラート/コーラスをオン/オフします。

オルガン・タイプおよびバリエーションによって効果は異なります。

Note: オルガン・タイプVOXはビブラートだけ使用できます。

9: ROTARYボタン

オルガン用のロータリー・スピーカー・シミュレーションをオン/オフします。

4. E.PIANOパート

E.PIANO

4  **LEVEL**

3  **VARIATION**

2 

1 

● TINE
● REED
● FM

1: E.PIANOタイプ・ボタン、LED
エレクトリック・ピアノ・タイプを選びます。
TINE: タイン・エレクトリック・ピアノ
REED: リード・エレクトリック・ピアノ
FM: FMエレクトリック・ピアノ

2: VARIATION ▲、▼ボタン

3: VARIATIONディスプレイ
E.PIANOタイプ・ボタンで選択したエレクトリック・ピアノのバリエーションを選びます。
バリエーションの番号が、VARIATIONディスプレイに表示されます。

Note: E.PIANO パートがオフのとき、VARIATIONディスプレイが薄く点灯します。

4: LEVELノブ
E.PIANOパートの音量を設定します。
音量レベルがノブの周りにLEDで表示されます。

5. PIANOパート

PIANO

4  **LEVEL**

3  **VARIATION**

2 

1 

● GRAND
● UPRIGHT
● E.GRAND

1: PIANOタイプ・ボタン、LED
アコースティック・ピアノ・タイプを選びます。
GRAND: グランド・ピアノ
UPRIGHT: アップライト・ピアノ
E.GRAND: エレクトリック・グランド

2: VARIATION ▲、▼ボタン


3: VARIATIONディスプレイ
PIANOタイプ・ボタンで選択したアコースティック・ピアノのバリエーションを選びます。
バリエーションの番号が、VARIATIONディスプレイに表示されます。

Note: PIANO パートがオフのとき、VARIATIONディスプレイが薄く点灯します。

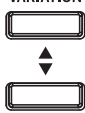
4: LEVELノブ
PIANOパートの音量を設定します。
音量レベルがノブの周りにLEDで表示されます。

6. KEY/LAYERパート

KEY/LAYER

4  **LEVEL**

3  **VARIATION**

2 

1 

● KEY ● LEAD
● BRASS ● SYNTH
● STRINGS ● OTHER

1: KEY/LAYERタイプ・ボタン、LED
キーボード/レイヤーの音色タイプを選びます。
KEY: クラビネット、パイプ・オルガン等
BRASS: ブラス、ウッドウィンド
STRINGS: スtringス、クワイヤー
LEAD: リード系
SYNTH: シンセサイザー
OTHER: その他

2: VARIATION ▲▼ボタン

3: VARIATIONディスプレイ
KEY/LAYERタイプ・ボタンで選択したバリエーションを選びます。
バリエーションの番号が、VARIATIONディスプレイに表示されます。

Note: KEY/LAYERパートがオフのとき、VARIATIONディスプレイが薄く点灯します。

4: LEVELノブ
KEY/LAYERパートの音量を設定します。
音量レベルがノブの周りにLEDで表示されます。

7. タッチ・コントロール

オルガンのドローバー、シンセサイザーのフィルターやアタック・タイム、全パートにかかるEQをコントロールします。

1: CONTROLボタン、LED

タッチ・センサーでコントロールする対象を選びます。

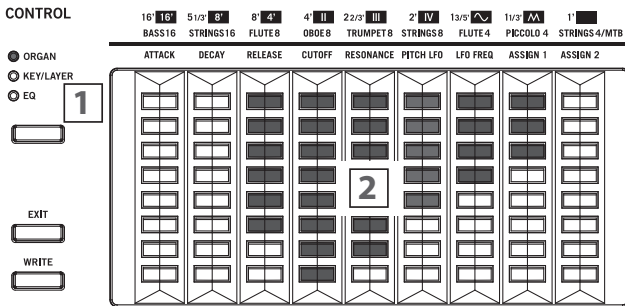
ORGAN: タッチ・センサーが、オルガン音色のドローバーやスイッチとして動作します。

KEY/LAYER: タッチ・センサーが、KEY/LAYERパートの音色コントロールとして動作します。

EQ: タッチ・センサーが、9バンドEQのコントロールとして動作します。この設定は、全パートの音色に影響します。

2: タッチ・センサー

タッチ・センサーを指でタッチして、CONTROLボタンで選択したパラメーターをコントロールします。複数のセンサーを同時にコントロールできます。



ORGAN

タッチ・センサーの動作は、CX-3、VOX、COMPACTの各オルガン・タイプによって異なります。

右図のようにタッチ・センサー上にオルガン・タイプごとのピッチ等が表示されています。

使用方法は8ページを参照してください。

Note: ここでの設定はシーンに保存されます。

1) CX-3

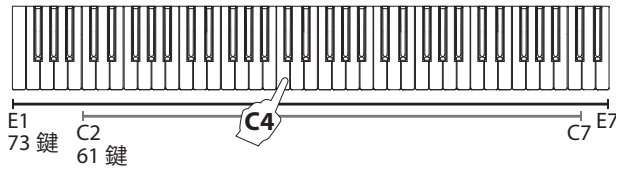
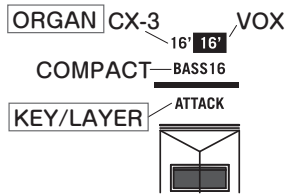
CX-3は、9つのドローバーで基本的な音色を作ります。各ドローバーで倍音を加減して音色を作ります。

各ドローバーのピッチは次のようになります。

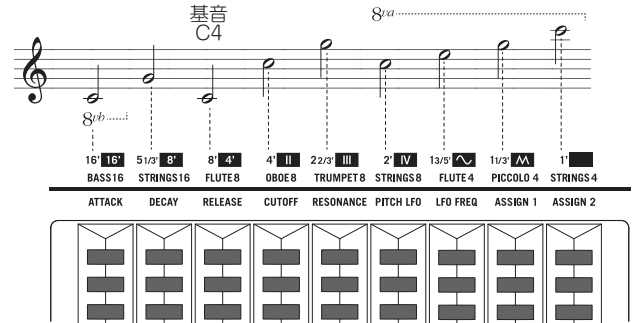
- 16', 5-1/3', 8', 4', 2-2/3', 2', 1-3/5', 1-1/3', 1'

アップー(上段鍵盤)とローー(下段鍵盤)それぞれにドローバー設定を持ちます。UPPER/LOWERボタンで切り替えます(『UPPER/LOWERボタン』13ページ)

Note: 0のときは、一番上のLEDが薄く点灯します。



次図は、C4の鍵盤を押さえたときの各ドローバーのピッチを示しています。



2) VOX

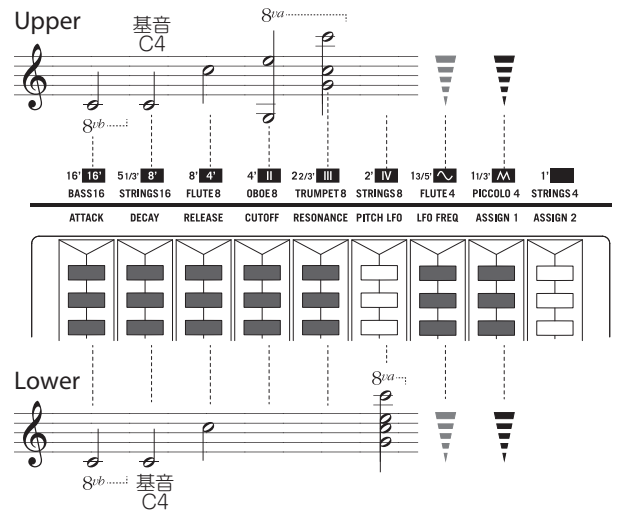
VOXのドローバーはアップーとローーで異なります。UPPER/LOWERボタンで切り替えます。(『UPPER/LOWERボタン』13ページ)

- アップーは 16'、8'、4'、II、III の5つのドローバーで倍音の加減を、右側の〜、Mドローバーで全体のトーンを調節します。〜はサイン波またはFluteのような柔らかい音、Mは矩形波またはReedのようなブライツな音です。
- ローーは 16'、8'、4'、IV の4つのドローバーで倍音の加減を、右側の〜、Mドローバーで全体のトーンを調節します。

Note: 〜、Mドローバーが0のときは、音が出ませんので注意してください。

Note: 0のときは、一番上のLEDが薄く点灯します。

次図は、C4の鍵盤を押さえたときの各ドローバーのピッチを示しています。



3) Compact

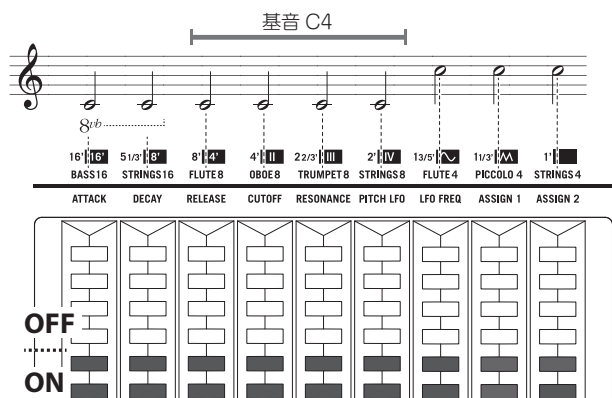
トーン・ストップをオン/オフします。

トーン・ストップは、表示された楽器名と同じ傾向の音色が所定のオクターブで鳴ります。これらを加減して音作りをします。各音色とオクターブは次のようになります。

- **BASS 16、STRINGS 16、FLUTE 8、OBOE 8、TRUMPET 8、STRINGS 8、FLUTE 4、PICCOLO 4、STRINGS 4**

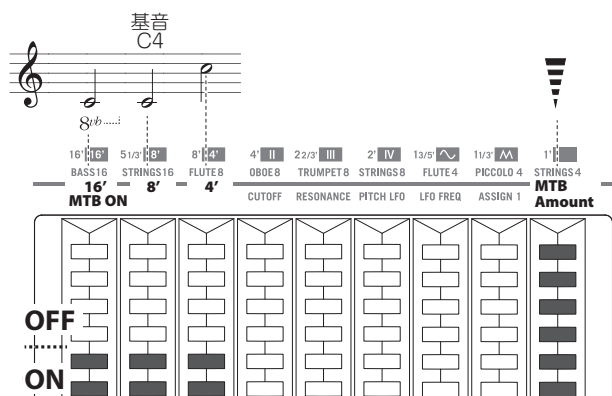
- 1 PERC/MTB ボタンを押して MTB をオフにします。(ボタン消灯)
- 2 下側 4 つのいずれかの LED にタッチするとオンになります(下4つのLED点灯)。上側 4 つのいずれかの LED にタッチするとオフになります(上4つのLED点灯)。

次図は、C4の鍵盤を押さえたときの各トーン・ストップのピッチを示しています。



MTB オン時、トーン・ストップの設定が無効になり、MTB (Multi-Tone-Booster)によるサウンドが得られます。

- 1 PERC/MTB ボタンを押して MTB をオンにします。(ボタン点灯)
- 2 左側3つのタッチ・センサーでMTB 16'、MTB 8'、MTB 4'のオン/オフを切り替えます。右側1つのタッチ・センサー(MTB Amount)は、MTBのレベルを調節します。

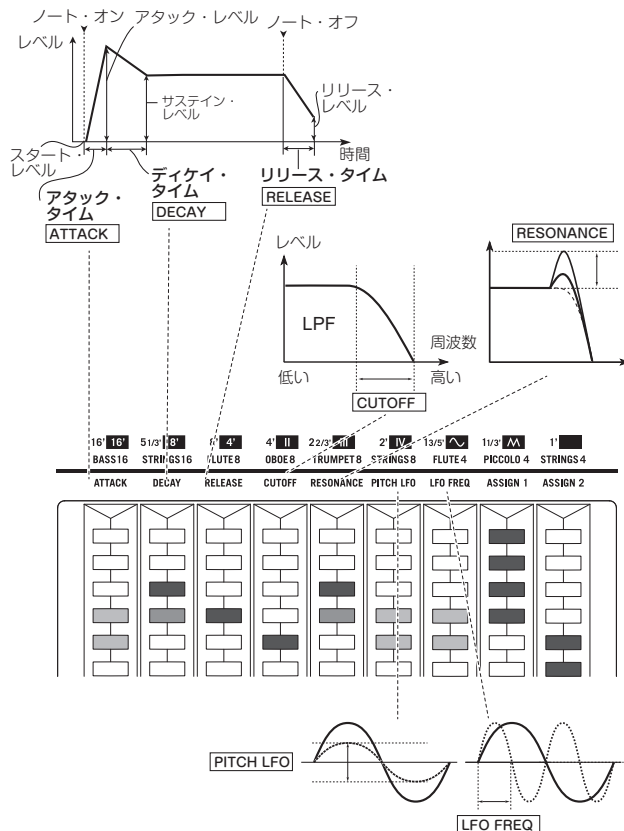


KEY/LAYER

KEY/LAYERのバリエーションの音色をコントロールします。各センサーで次のコントロールを行います。

使用方法は9ページを参照してください。

Note: ここでの設定はシーンに保存されます。



アンプEG

バリエーションのアンプEGを調節します。音量が時間の経過でどのように変化するかを設定します。

(1) ATTACK (アタック・タイム)

打鍵直後の音がすぐに大きくなるか徐々に大きくなるかを設定します。

(2) DECAY (ディケイ・タイム)

アタック・タイム後のディケイを調節します。

(3) RELEASE (リリース・タイム)

鍵盤を離した後、音が完全に消えるまでの時間を設定します。

フィルター

(4) CUTOFF (カットオフ)

音色の高域や低域など特定の周波数帯域をカットします。

たとえば、ローパス・フィルターが設定されている場合、音の明るさが変化します。通常値を小さくすると音が暗くなり、大きくすると明るくなります。

Note: フィルターはバリエーションごとに異なります。

(5) RESONANCE (レゾナンス)

カットオフ周波数付近の周波数を強調します。

値を0に設定すると強調されず、カットオフ以降の周波数はなだらかに減衰します。

中程度の設定では、鼻にかかったようなサウンド、あるいはより過激なサウンドになります。非常に高い設定では、口笛のような共振音が得られます。

LFO

(6) PITCH LFO (ピッチ LFO)

LFOによるピッチの振れ幅を設定します。

(7) LFO FREQ (LFO フリケンシー)

LFO周波数を設定します。

Note: 0のときは中央の2つのLEDが薄く点灯します。

アサインブル

(8) ASSIGN1 (アサインブル 1)

音色ごとに効果が異なります。

(9) ASSIGN2 (アサインブル 2)

音色ごとに効果が異なります。

Note: 値は、スイッチ(上4つのLED点灯でオン、下4つのLED点灯でオフ)と、スライダーの場合があります。

EQ 周波数帯域とゲイン

9バンドのグラフィックEQはEFFECTSの後段に配置され、VALVE DRIVE、ステレオ・アウトにかかります。

全バンドともピーキング型です。

EQボタンでオンにします。

63Hz Gain [dB] [-12.0...+12.0]

125Hz Gain [dB] [-12.0...+12.0]

250Hz Gain [dB] [-12.0...+12.0]

500Hz Gain [dB] [-12.0...+12.0]

1KHz Gain [dB] [-12.0...+12.0]

2KHz Gain [dB] [-12.0...+12.0]

4KHz Gain [dB] [-12.0...+12.0]

8KHz Gain [dB] [-12.0...+12.0]

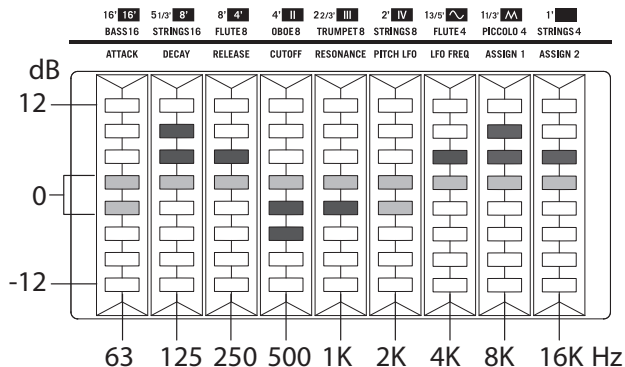
16KHz Gain [dB] [-12.0...+12.0]

各バンドのゲインを設定します。

使用方法は19ページを参照してください。

Note: 0dBのときには、中央の2つのLEDが薄く点灯します。

Note: EQのオン/オフ、およびここでの設定はシーンに保存されませんが、電源を切るときに保存され、電源を入れたときに呼び出されます。



8. シーン・セレクト

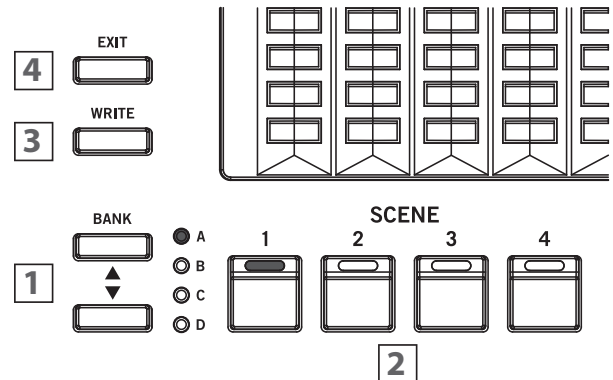
VOX Continental上で設定した音色を最大16個まで保存し、その設定を瞬時に呼び出すことができます。これらを「シーン」と呼びます。

保存される設定:

パート・セレクト・ボタン、各音色パート、タッチ・センサー、EFFECTコントロール(EQを除く)

保存されない設定:

EQ、VOLUME ノブ、VALVE DRIVE ノブとボタン、DYNAMICS ノブとボタン、CONTROL ボタン、バンド・レバー



1: BANK ▲、▼ボタン、LED

シーンは、A～Dの4バンクがあります。

BANK▲、▼ボタンを押して、バンクを選びます。

2: SCENE 1, 2, 3, 4ボタン

BANK ▲、▼ボタンを押して選択したバンクのシーン1～4を呼び出します。

シーンに保存された音色に切り替わります。

Note: 上記「保存される設定」を変更すると、現在選択されているSCENEボタンが点滅します。点滅しているSCENEボタンを押すと、変更は取り消され、保存されていた状態に戻ります。

3: WRITEボタン

現在の音色設定をシーンに保存します。

シーンの登録については「シーンを保存する」(11ページ)を参照してください。

Note: 電源を入れたとき、前回電源を切った直前に選ばれていたシーンが呼び出されます。

4: EXITボタン

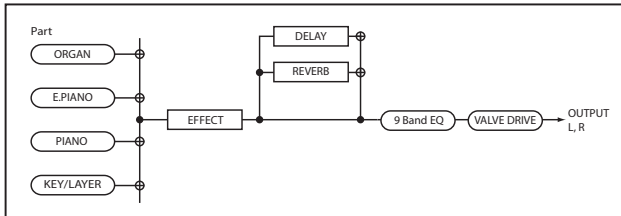
ライト操作をキャンセルしたり、マスター・チューニング、MIDIチャンネルなどのシステム設定をしたりするときや、途中で抜けたるときに使用します。(20ページ)

9. EFFECTSコントロール

3系統のエフェクトとEQを設定します。

各音色パートのバリエーションに対して、通常EFFECTで音作りをして、DELAYとREVERBで全体の空間処理を、9バンドEQで全体の音質を調節します。VALVE DRIVEで音圧感やドライブを与えます。

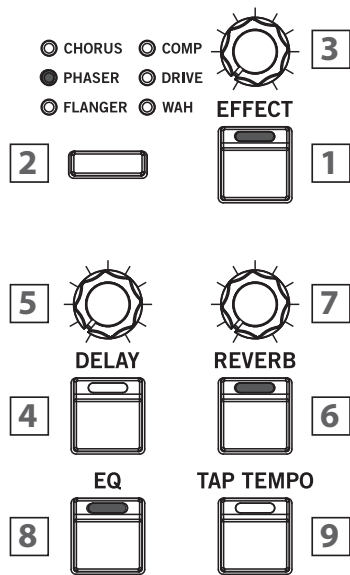
これらのエフェクトはすべてのパートのバリエーションにかかります。



Note: 各パートのバリエーションを切り替えても、これらの設定は変わりません。

Note: EFFECT、DELAY、REVERBの設定はシーンに含まれ、シーンごとに設定が切り替わります。EQ、VALVE DRIVEは切り替わりません。

EFFECTS



EFFECT(エフェクト)

1: EFFECTボタン

エフェクトをオン/オフします。(オン時ボタン点灯)

2: EFFECTタイプ・ボタン、LED

エフェクトのタイプを選びます。選択したエフェクトのLEDが点灯します。

CHORUS(コーラス): 入力信号のディレイ・タイムをゆらすことによって、音に厚みや暖かさを与えるエフェクトです。

PHASER(フェイザー): 音の位相を動かすことによってうねりを作り出すエフェクトです。エレクトリック・ピアノなどにかけると効果的です。

FLANGER(フランジャー): 激しいうねりと音程の移動感を与えるエフェクトです。倍音を多く含んだ音にかけると効果的です。

COMP(コンプレッサー): 入力信号のダイナミック・レンジを圧縮します。圧縮することにより、音の粒をそろえてパンチを与えることができます。ピアノなどで使用すると効果的です。

DRIVE(ドライブ): 音圧感や歪みを与えます。

WAH(ワウ): 強調する周波数帯域を変化させて音をぎらつかせたり、こもらせたりするエフェクトです。CONTROL端子にペダルを接続したときは、ペダルでコントロールします。

Note: エフェクトを切り替えると、各エフェクトの初期値が適用されます。

3: EFFECTノブ

EFFECTタイプ・ボタンで選択したエフェクトを調節します。エフェクト・タイプによって、またバリエーションによって変化する効果が異なります。

- EFFECTノブを回して1つめの機能を調節します。LFO変調の深さなどが変化します。
- EFFECTボタンを押しながらEFFECTノブを回して、2つめの機能を調節することができます。LFOの速さなどが変化します。

DELAY(ディレイ)

DELAYは、一定の時間、音を遅らせる効果(やまびこのような効果)です。

4: DELAYボタン

ディレイをオン/オフします。(オン時ボタン点灯)

ディレイ・タイプの選択

- EXITボタンを押しながら、DELAYボタンを押します。
- KEY/LAYER ▲、▼ボタンを押して、タイプを切り替えます。KEY/LAYERパートのVARIATIONディスプレイにはディレイ・タイプが表示されます。

01. DELAY: シンプルなステレオ・ディレイ。

02. CROSS: ディレイ音が左右に飛び交うタイプのステレオ・ディレイ。

03. TAPE: アナログ・テープ・エコーの名機をモデリング。磁気テープやモーターの回転によるサウンドの歪みや揺れなどの音色変化を再現。暖かみのあるエコー・サウンド。

04. MOD DLY: ディレイ音に、コーラス・エフェクトのような音程の変化を加えた、うねりやゆらぎのあるディレイ・サウンド。

- EXITボタンを押すと、タイプ選択から抜けます。

5: DELAYノブ

ディレイのかかり具合を調節します。エフェクト・タイプによって、またバリエーションによって変化する効果が異なります。

- DELAYノブを回して1つめの機能を調節します。ディレイの深さなどが変化します。
- DELAYボタンを押しながらDELAYノブを回して、2つめの機能を調節することができます。フィードバック量などが変化します。

* TAP TEMPOボタンでディレイ・タイムを調節します。

REVERB(リバーブ)

REVERBは、音が鳴っている空間の広がり表現するためのエフェクトで、残響をつけることによって、天井や壁で反射する音をシミュレートします。

6: REVERBボタン

リバーブをオン/オフします。(オン時ボタン点灯)

リバーブ・タイプの選択

- EXITボタンを押しながら、REVERBボタンを押します。
- KEY/LAYER ▲、▼ボタンを押して、タイプを切り替えます。

KEY/LAYER部分のVARIATIONディスプレイにはリバーブ・タイプが表示されます。

01. HALL1: コンサート・ホールやアンサンブル・ホールなどの大きめの部屋の残響音が得られる暖かみのあるホール・タイプのリバーブ。

02. HALL2: HALL1と比べて、透明感のあるホール・タイプのリバーブ。

03. ROOM1: 小さな部屋での残響音が得られるリバーブ。

04. ROOM2: ROOM1と比べて、ややブライتنا残響音が得られるリバーブ。

05. SPRING: 一部のギター・アンプやオルガンで使用されるスプリング方式のリバーブ・サウンドを再現したリバーブ。

- EXITボタンを押すと、タイプ選択から抜けます。

7: REVERBノブ

リバーブのかかり具合を調節します。

エフェクト・タイプによって、またバリエーションによって変化する効果が異なります。

- REVERBノブを回して1つめの機能を調節します。
リバーブの深さなどが変化します。
- REVERBボタンを押しながらREVERBノブを回して、2つめの機能を調節することができます。

リバーブ・タイム、部屋のサイズ感を調節します。SPRINGでは、リバーブ・タイム、スプリングの残響感を調節します。

EQ(イコライザー)

8: EQボタン

EQをオン/オフします。(オン時ボタン点灯)

- EQがオンのとき、CONTROLボタンでEQを選択すると、タッチ・センサーでEQが調節できます。
(☞「CONTROLボタン、LED」15ページ)

全バンドともピーキング型です。

Note: EQのオン/オフはシーンに保存されません。

TEMPO(テンポ)

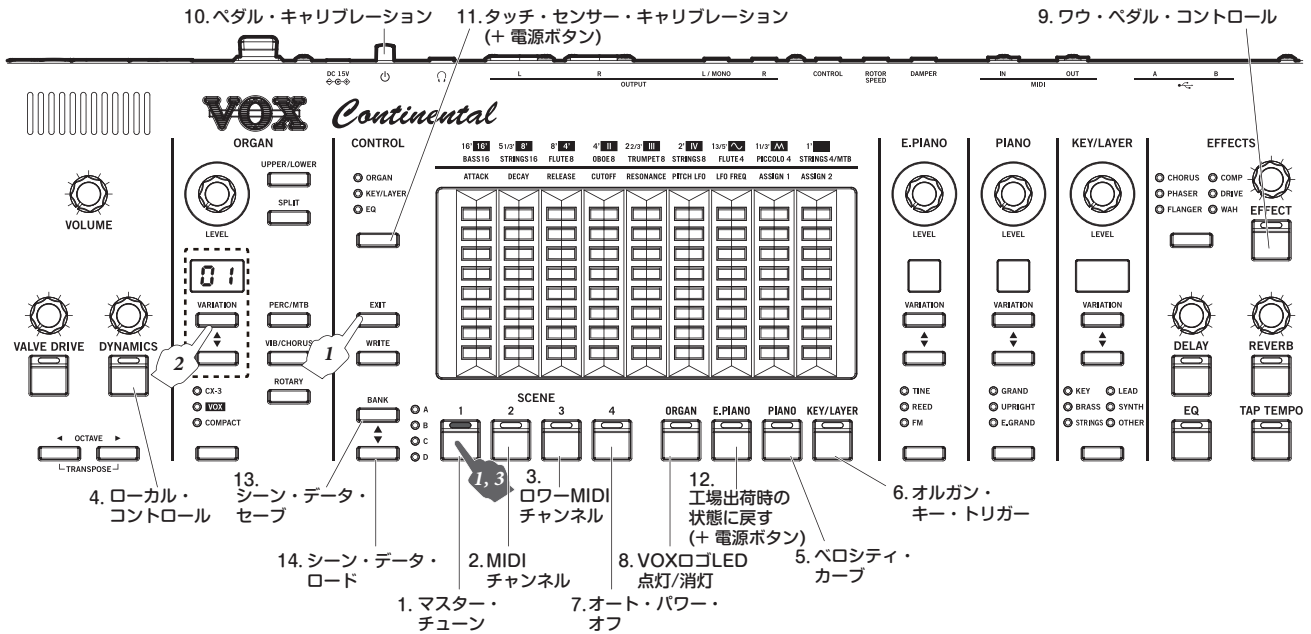
9: TAP TEMPOボタン

エフェクトのLFOスピードなどの基準となるテンポを設定します。

- TAP TEMPOボタンを、設定したいテンポのタイミングで数回押します。

ディレイ・タイムやE.PIANO (TINE、REED、FM)などのトレモロ・スピードを調節します。

システム設定



マスター・チューン、MIDI、コントローラーの機能など、本機全体に関する設定を行います。

設定手順

- 1 EXIT ボタンを押しながら、機能が割り当てられたボタンを押します(上記図参照)。機能が割り当てられたボタンが点滅し、ORGAN部分のVARIATIONディスプレイに値が表示されます。それ以外のVARIATIONディスプレイは消灯します。
- 2 ORGAN部分のVARIATION ▲、▼ボタンで値を設定します。
- 3 機能が割り当てられたボタンを押して、設定を確定します。
 - ◆ EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

Note: 上記手順と異なる場合があります。詳しくは各項目をご覧ください。

1. マスター・チューン

本機全体のチューニング(調律)を調節します。セント単位(半音=100セント)で±50セント(427.47~440~452.89)の範囲で設定します。値が0のとき440Hz(A4の周波数)です。(初期設定:0)

- 1 EXIT ボタンを押しながら、SCENE 1 ボタンを押します。(SCENE1ボタン点滅)
- 2 ORGAN部分のVARIATION ▲、▼ボタンで、チューニングを設定します。
-の値ではVARIATIONディスプレイのセント単位の右側にドットが表示されます。
 - ◆ VARIATION ▲と▼ボタンを同時に押すと0にリセットされます。
- 3 SCENE 1 ボタンを押して、設定を確定します。
 - ◆ EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

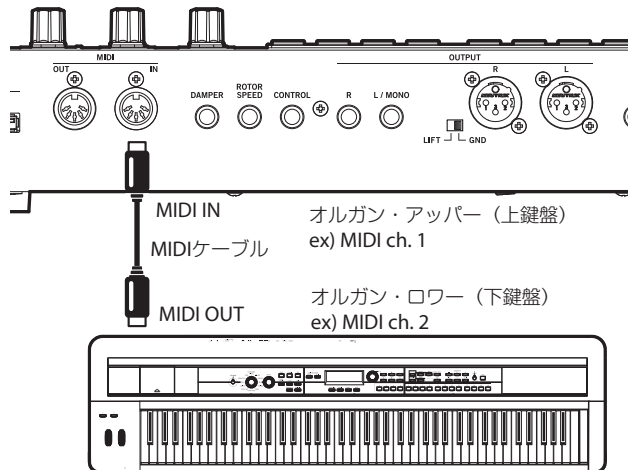
2. MIDIチャンネル

本機が送受信するMIDIチャンネル(1~16)を設定します。(初期設定:1)

- 1 EXIT ボタンを押しながら、SCENE 2 ボタンを押します。(SCENE 2ボタン点滅)
- 2 ORGAN部分のVARIATION ▲、▼ボタンで、送信MIDIチャンネルを設定します。
- 3 SCENE 2ボタンを押して、設定を確定します。
 - ◆ EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

3. ロワーMIDIチャンネル

外部MIDIキーボードを本機のオルガンのロワー(下段鍵盤)として使用するときのMIDIチャンネル(1~16)を設定します。(初期設定:2)



外部MIDIキーボードの接続とMIDIチャンネルの設定

- 1 ロー用MIDIキーボードのMIDI OUT端子と本機のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。
- 2 ロー用MIDIキーボードの送信MIDIチャンネルを本機の「MIDIチャンネル」以外に設定します。

本機のローMIDIチャンネルの設定

- 1 EXITボタンを押しながら、SCENE 3ボタンを押します。(SCENE 3ボタン点滅)
- 2 ORGANパートのVARIATION ▲、▼ボタンで、受信MIDIチャンネルを、ロー用MIDIキーボードの送信MIDIチャンネルに合わせます。
Note: 「MIDIチャンネル」と、同じチャンネルに設定することはできません。
- 3 SCENE 3ボタンを押して、設定を確認します。
 - EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

4. ローカル・コントロール

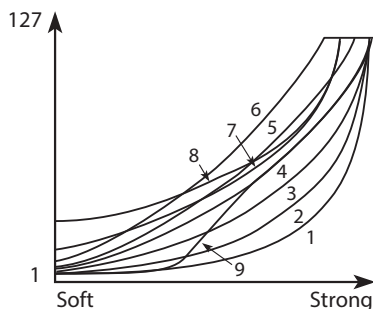
DAWなどに接続したとき、エコー・バック(本機を弾いたときに送信する演奏データが、DAWから再び本機に戻ってくる)によって二重に発音してしまうことを防ぐときに設定します。この場合、**of**(ローカル・コントロール・オフ)に設定します。(初期設定:On)

- 1 EXITボタンを押しながら、DYNAMICSボタンを押します。(DYNAMICSボタン点滅)
- 2 ORGANパートのVARIATION ▲、▼ボタンで、オン/オフを設定します。
of: 本機の鍵盤やコントローラーが、音源部から切り離されます。エコー・バックを回避します。
on: 本機を単体で使用するときを設定します。
- 3 DYNAMICSボタンを押して、設定を確認します。
 - EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

5. ベロシティ・カーブ

本体鍵盤を打鍵する強さ(ベロシティ)による音量や音色の変化具合を設定します。(初期設定:4)

- 1 EXITボタンを押しながら、パート・セレクトのPIANOボタンを押します。(PIANOボタン点滅)
- 2 ORGANパートのVARIATION ▲、▼ボタンで、ベロシティ・カーブを設定します。



- 1, 2, 3: 強く弾いたときに効果が得られるカーブです。
4: 標準的なカーブです。

- 5, 6: あまり強く弾かなくても効果が得られるカーブです。
7: 弱打鍵時に一定の効果が得られるカーブです。
8: より一定の効果が得られるカーブです。
9: 標準カーブ4に比べて、弱く弾いたときのレスポンスをよりソフトにしたカーブです。
- 3 PIANOボタンを押して、設定を確認します。
 - EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

6. オルガン・キー・トリガー

鍵盤を浅く押したとき、または深く押したときに、オルガン音色が発音するか設定します。浅い位置で発音させることによって、ビンテージのトーン・ホイール・オルガンのような演奏が行えます。(初期設定:Lo)

- 1 EXITボタンを押しながら、パート・セレクトのKEY/LAYERボタンを押します。(KEY/LAYERボタン点滅)
- 2 ORGANパートのVARIATION ▲、▼ボタンで、トリガー位置を設定します。
Hi: 鍵盤の浅い位置でオルガン音色が発音します。
Lo: 鍵盤の深い位置でオルガン音色が発音します。
- 3 KEY/LAYERボタンを押して、設定を確認します。
 - EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

7. オート・パワー・オフ

本機は鍵盤やノブ、ボタンを一定時間操作しないと自動で電源が切れます。これを「オート・パワー・オフ」といいます。(初期設定:4h)

- 1 EXITボタンを押しながら、SCENE 4ボタンを押します。(SCENE 4ボタン点滅)
- 2 ORGANパートのVARIATION ▲、▼ボタンで、オート・パワー・オフの有効/無効を設定します。
d (Disable): オート・パワー・オフ機能は無効です。自動的に電源は切れません。
4h (4hours): 操作しない時間が4時間経つと、自動的に電源が切れます。
- 3 SCENE 4ボタンを押して、設定を確認します。
 - EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

8. VOXロゴLEDの点灯/消灯

リア・パネルのVOXロゴのLEDを点灯または消灯させます。(初期設定:On)

- 1 EXITボタンを押しながら、パート・セレクトのORGANボタンを押します。(ORGANボタン点滅)
- 2 ORGANパートのVARIATION ▲、▼ボタンで、VOXロゴのLEDを点灯または消灯させるかを設定します。
of: 消灯
on: 点灯
- 3 ORGANボタンを押して、設定を確認します。
 - EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

9. ワウ・ペダル・コントロール

CONTROL端子に接続したエクスプレッション・ペダルで音量またはワウをコントロールします。(初期設定:Auto)

- EXITボタンを押しながら、EFFECTボタンを押します。
(EFFECTボタン点滅)
- ORGANパートのVARIATION ▲、▼ボタンで、機能を設定します。

R_w (Auto): エフェクトにワウ(WAH)が設定されているときは、ペダルがワウ・ペダルとして動作します。
ワウ以外のエフェクトを選択しているときは、ペダルで音量をコントロールします。
EH (Expression): ペダルで音量をコントロールします。
- EFFECTボタンを押して、設定を確定します。
• EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

10. ペダル・キャリブレーション

DAMPER、ROTOR SPEED、CONTROL端子に接続した各ペダル極性、ペダルの可変範囲を調整します。

- 本機の電源を切り、キャリブレーションを行うすべてのペダルを各端子に接続します。
接続については6ページを参照してください。
- ペダルの値を最小値にします。
エクスプレッション・ペダルは手前に戻しきってください。
ダンパー・ペダル、ペダル・スイッチから足を離します。
- EXITボタンを押しながら、本機の電源ボタンを押して、電源を入れます。
- EXITボタンとSCENE 1ボタンが点滅し始めたら、ボタンから指を離します。(その他のLEDは消灯)

DAMPER端子のペダルのキャリブレーション

- ダンパー・ペダルが止まるまで踏み込んでから、足を離します。
Note: DAMPER端子にペダルを接続していないときは、点滅しているSCENE 1ボタンを押してスキップします。
キャリブレーションが完了すると、SCENE 1ボタンが点灯します。

ROTOR SPEED端子のペダルのキャリブレーション

- SCENE 2ボタンが点滅していることを確認します。
Note: ROTOR SPEED端子にペダルを接続していないときは、点滅しているSCENE 2ボタンを押してスキップします。
- ペダル・スイッチを止まるまで踏み込んでから、足を離します。
キャリブレーションが完了すると、SCENE 2ボタンが点灯します。

CONTROL端子のペダルのキャリブレーション

- SCENE 3ボタンが点滅していることを確認します。
Note: CONTROL端子にペダルを接続していないときは、点滅しているSCENE 3ボタンを押してスキップします。

- エクスプレッション・ペダルを止まるまで踏み込んでから、手前に戻しきります。
キャリブレーションが完了すると、SCENE 3ボタンが点灯します。
- すべてのペダルのキャリブレーションが終了すると、数秒後に、演奏できる状態になります。

11. タッチ・センサー・キャリブレーション

タッチ・センサーの感度を調整します。

ご使用の環境によって、タッチ・センサーの操作感が悪い場合に感度を調整してください。

- 本機の電源を切ります。
- EXITボタンとCONTROLボタンを押しながら、本機の電源を入れます。
左端のタッチ・センサーのLEDが上下に点灯し始めます。
- LEDの点灯を追いかけるように指でなぞります。
点灯しているタッチ・センサーのキャリブレーションが終わると、次のタッチ・センサーのLEDが上下に点灯し始めます。
- 同様にLEDの点灯を追いかけるようになぞります。
この操作を右端のタッチ・センサーまで行います。
すべてのタッチ・センサーのキャリブレーションが終わると、演奏できる状態になります。

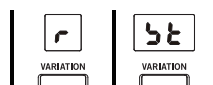
12. 工場出荷時の状態に戻す

本機の設定を工場出荷時の設定に戻します。

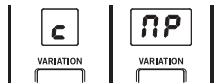
- この操作では、シーン・データ、およびシステム設定データをリセット(初期化)します。そのため、新規に作成したシーン・データは上書きされて消えてしまいます。シーン・データを残しておきたい場合は、USBストレージ・デバイス(市販)にセーブしておいてください。また、システム設定は、キャリブレーション・データを含めすべてリセットされます。再度、設定やキャリブレーションを行ってください。

- リセット中は本機の電源を切ったり、鍵盤を弾いたり、ボタン、ノブ、コントローラーなどを動かしたりしないでください。リセットが失敗して本製品が使用できなくなる可能性があります。

- EXITボタンとパート・セレクトのE.PIANOボタンを押しながら、電源ボタンを押します。
PIANOパート、KEY/LAYERパートの各VARIATIONディスプレイに以下の文字が点灯します。
5秒程度すると、VARIATIONディスプレイと、WRITEボタンがゆっくり点滅します。



- WRITEボタンを押すと初期設定にリセットされます。
VARIATIONディスプレイに以下の文字が点滅し、数秒後に通常起動状態になります。
• WRITEボタン以外のボタンを押すと、処理がキャンセルされます。



13. シーン・データのセーブ

本機に保存した16個のシーンをUSB A端子に接続したUSBストレージ・デバイス(市販)にデータ・ファイルとしてセーブ(保存)します。

たとえば、自宅で作成したシーンをUSBフラッシュ・メモリーにセーブし、そのデータ・ファイルをスタジオやステージの同様にロードして、自宅で作成したシーンを再現します。

プロジェクトごとに作成して保存、管理することで、必要なシーンをいつでも呼び出すことができます。

- 1 USBストレージ・デバイスを、本機のUSB A端子に接続します。

Note: 本機のUSB A端子は、ホット・プラグ(電源を入れた状態でUSBメディア/ケーブルを抜き差しして使用できること)に対応しています。

- 2 EXITボタンを押しながら、BANK▲ボタンを押します。
E.PIANOパート、PIANOパートとKEY/LAYERパートの各VARIATIONディスプレイに、**SAVE**と表示されます。

BANK A LEDが点滅し、ORGANパートのVARIATIONディスプレイに値が表示されます。

- 3 ORGANパートのVARIATION ▲、▼ボタンで、ファイル番号を選びます。

ファイル番号は、00から99まで設定できます。

- 4 選択した番号のファイルがUSBストレージ・デバイス内にある場合は、番号の右下にドットが表示されます。

- 4 BANK▲ボタンを押して、セーブを確定します。

セーブ実行中はBANK A LEDが速く点滅し、セーブが完了すると元の状態に戻ります。

- EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。
- 手順3で選択した番号のファイルがUSBストレージ・デバイス内にすでに存在する場合、E.PIANOパート、PIANOパートとKEY/LAYERパートのVARIATIONディスプレイに **SAVE**と表示されます。

このときBANK▲ボタンを押すと、上書き保存されます。

使用できるメディア

MS-DOS FAT16、FAT32フォーマットのフラッシュ・メディア、ディスクなどのUSBストレージ・デバイスに対応

認識できる容量

FAT32 : 2TB(2000GB)まで

FAT16: 4GBまで

本機でメディアにセーブしたときに、メディアのルート・ディレクトリに本機専用のVOX/CONTINENTALというディレクトリが自動的に作成されます。

シーン・データのセーブを実行すると、このディレクトリに「CONTINENTAL_00.SCE」というファイルが保存されます。「00」の部分は、設定したファイル番号が入ります。

Note: メディアのフォーマットがMS-DOS FAT16、FAT32でない場合、PIANOパートとKEY/LAYERパートのVARIATIONディスプレイに、**Err**とエラー表示します。

EXITボタンで抜けて、コンピューターでフォーマットを実行してください。

また、メディアの残量が少なくてセーブが実行できない場合、**Err**とエラー表示します。

コンピューターで不要なファイルを消去して容量を確保してください。または、十分な空き容量があるメディアに交換してください。

- 4 SCE ファイルをロードするときは、VOX/CONTINENTALディレクトリにある .SCEファイルのみを選択しロードすることが可能です。コンピューターなどでディレクトリやファイルの階層、ファイル名を変更するとロードできなくなります。

本機で認識するファイル名/拡張子は、CONTINENTAL_xx.SCEです。コンピューターなどでファイル名、拡張子を変更すると、本機はこれを未定義のファイルとみなし、本機でロードできなくなります。

14. シーン・データのロード

シーン・データのセーブでUSBストレージ・デバイス(市販)に保存した16個のシーン・データを本体にロードできます。

- 4 この操作ではシーン・データをロードします。そのため、工場出荷時やエディットして保存したこれらのシーン・データは上書きされて消えてしまいます。シーン・データを残しておきたい場合は、USBストレージ・デバイスにセーブしておいてください。

- 1 シーン・データを保存した USB ストレージ・デバイスを、本機のUSB A端子に接続します。

Note: 本機のUSB A端子は、ホット・プラグ(電源を入れた状態でUSBメディア/ケーブルを抜き差しして使用できること)に対応しています。

- 2 EXITボタンを押しながら、BANK▼ボタンを押します。

E.PIANOパート、PIANOパートとKEY/LAYERパートの各VARIATIONディスプレイに、**LOAD**と表示されます。

BANK D LEDが点滅し、ORGANパートのVARIATIONディスプレイに値が表示されます(それ以外のVARIATIONディスプレイは消灯)。

- 3 ORGANパートのVARIATION ▲、▼ボタンで、ファイル番号を選びます。

USBストレージ・デバイス内に保存されているファイル番号が選べます。

Note: ロードできるファイルが存在しない場合、PIANOパートとKEY/LAYERパートのVARIATIONディスプレイに、**Err**とエラー表示します。

- 4 BANK▼ボタンを押して、ロードを確定します。

E.PIANOパート、PIANOパートとKEY/LAYERパートの各VARIATIONディスプレイに、**LOAD**と表示されます。

- 5 BANK▼ボタンを押して、ロードを実行します。

ロード実行中はBANK D LEDが速く点滅し、ロードが完了すると元の状態に戻ります。

- EXITボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

付録

故障とお思いになる前に

動作がおかしいと思ったときは、以下の項目を確認してください。

電源が入らない

- ACアダプターがコンセントに接続されていますか？
(☞5ページ)

電源が切れない

- 電源ボタンを長く押ししましたか？

電源が切れてしまう

- オート・パワー・オフ機能が有効になっていませんか？

鍵盤を弾いても音が出ない

- パワード・モニター・スピーカーやヘッドホンは正しく接続されていますか？(☞6ページ)
- 接続しているパワード・モニター・スピーカーなどの電源が入り、ボリュームが上がっていますか？
- VOLUMEノブが左に回しきられていますか？
- ローカル・コントロール設定がOnになっていますか？
- 各パートのLEVELノブが左に回しきられていませんか？
- CONTROL端子に接続したペダルでのボリュームが下がっていませんか？
- 弾いた鍵盤の一部の音が出ないとき、最大同時発音数を超過していませんか？
- オルガンのバリエーションで、すべてのドローバー(トーン・ストップ)がゼロになっていませんか？

音が止まらない

- ダンパー・ペダルが正しい設定になっていますか？
キャリブレーションを行い、ペダルの極性やハーフ・ダンパーの可変範囲を調整してください。

音が二重に発音する

- 外部MIDI機器やDAW等を使用中の場合、ローカル・コントロール設定がOffになっていますか？

ノイズが出る

- 本製品に強い衝撃を加えたとき、高音域のノイズがスピーカーやヘッドホンなどから聞こえる場合があります。これはNutubeの構造によるもので、故障ではありません。
- バリエーションが使用しているエフェクトには、ノイズ効果を持つエフェクトがあります。
また、レゾナンス付きフィルターでは発振させることができます。これらは故障ではありません。
- DYNAMICSノブ、EQの各ゲイン、LEVELノブなどで音量を上げた場合に、デジタル信号処理で過大レベルとなり、歪みやノイズが発生する場合があります。これは故障ではありません。
それぞれで音量を下げて調節してください。
- REVERB、DELAYをオンにしたときに、過入力による歪みやノイズが発生する場合があります。これは故障ではありません。
各音色パートのLEVELノブ、REVERBノブの値を下げて調節してください。
- TAPボタンなどで、ディレイ・エフェクトのタイムを変更したときにノイズが発生する場合があります。これはディレイ・タイムが急激に変化し不連続になるためのノイズで故障ではありません。

音が歪む

- 接続したミキサー、パワード・モニター・スピーカー等で過入力になっていませんか？
本機のVOLUMEノブで出力レベルや、ミキサーの入力ゲインやレベルを調節してください。

鍵盤で和音演奏ができない

- モノフォニック・シンセサイザーのバリエーションなどで、和音演奏できないものがあります。故障ではありません。

発音のピッチがずれる

- トランスポーズ機能が正しく設定されていますか？
- システム設定のマスター・チューンが正しく設定されていますか？

EQが効かない、コントロールできない

- EFFECTSコントロールのEQボタンがオンになっていますか？
- タッチ・センサーでEQをコントロールできない場合、CONTROLボタンでEQがオンになっていますか？

DYNAMICSやVALVE DRIVE、エフェクトが効かない

- DYNAMICS、VALVE DRIVE、EFFECT、DELAY、REVERBの各ボタンが、オフ(消灯)になっていませんか？

コントローラーが機能しない

- ベンド・レバーは、レイヤーで使用する場合、コントロールできる音色パートに優先順位があります。優先順位が上の1つだけで使用できます。PIANOとKEY/LAYERパートでレイヤーした場合、効果はかかりません。
- ベンド・レバーは、PIANOパートのバリエーションでは使用できません。
- タッチ・センサーでコントロールしたい機能をCONTROLボタンで選んでいますか？(☞8ページ)
- タッチ・センサーでEQの音質が変化しない場合、EQボタンがオンになっていますか？(☞10ページ)
- E.PIANO、PIANOパートでのタッチ・センサーによるコントロールは、すべての音色に効果がかかるEQのみです。

エディットしたシーンがない

- シーンを保存する前にシーンを切り替えたり、電源を切ったりしませんでしたか？

各ペダル端子に接続したダンパー・ペダル、エクスプレッション・ペダル、フット・スイッチの反応がおかしい

- 正しい設定で接続されていますか？キャリブレーションを行い、極性や可変範囲を調整してください。(☞22ページ)

外部MIDIキーボードからオルガンのローをコントロールできない

- MIDIケーブルは正しく接続されていますか？
- 外部MIDI機器が送信するデータのMIDIチャンネルと本機のローMIDIチャンネルがあっていますか？(☞20ページ)

エラー・メッセージ一覧

VOX Continentalを使用中に予期しないエラーが発生したときは、PIANOパートとKEY/LAYERパートのVARIATIONディスプレイにE**のエラー・メッセージが表示されます。それ以外のVARIATIONディスプレイは消灯します。

このようなメッセージが表示されたときは、お客様相談窓口にお問い合わせください。

EXITボタンを押すと、エラー・メッセージは消灯します。

仕様

使用温度条件	+5~+40度 (結露させないこと)		
鍵盤	Continental-61	61鍵:セミ・ウエイテッド・ウォーターフォール、ペロシティ対応 C2~C7 ([C0...C5]~[C4...C9]の範囲で可変)	
	Continental-73	73鍵:セミ・ウエイテッド・ウォーターフォール、ペロシティ対応 E1~E7 ([E-1...E5]~[E3...E9]の範囲で可変)	
音源部	最大同時発音数	モデリング・トーンホイール・オルガン音源 128ボイス	
		モデリング・トランジスター・オルガン音源 100ボイス	
		モデリング・エレクトリック・ピアノ音源 80ボイス	
		高品位ピアノ音源 60デュアル・ステレオ・ノート (最大で240ボイス相当)	
		モデリング・アナログシンセ音源 36ボイス	
		PCM音源 64ステレオ・ノート (最大で128ボイス相当)	
	PCMメモリー容量	約10.5Gbyte (48kHz・16ビット・リニアPCM換算時)	
	ORGANパート	3タイプ(CX-3、VOX、COMPACT)、ドローバー、パーカッションON/OFF、スプリット機能、ピブラート/コーラスON/OFF、ロータリースピーカーON/OFF	
	EPIANOパート	3タイプ(TINE、REED、FM)	
	PIANOパート	3タイプ(GRAND、UPRIGHT、EGRAND)	
KEY/LAYERパート	6タイプ(KEY、BRASS、STRINGS、LEAD、SYNTH、OTHER)		
プリセット・バリエーション	150		
シーン	16 (4x4): USBデバイスに最大100セットまで保存可能		
エフェクト	インサート・エフェクト	EFFECT	CHORUS、PHASER、FLANGER、COMP、DRIVE、WAH (ペダル・コントロール可能)
	マスター・エフェクト	DELAY	1. DELAY、2. CROSS、3. TAPE、4. MOD DLY
		REVERB	1. HALL1、2. HALL2、3. ROOM1、4. ROOM2、5. SPRING
EQ	9バンド・ステレオ出力		
VALVE DRIVE	真空管 Nutube 6P1		
DYNAMICS	鍵盤タッチによる音量音色の変化具合をコントロール。		
コントローラー	バンド・レバー	ORGAN: Rotary Slow/Fast、EPIANO: トレモロ・オン/オフ、KEY/LAYER: ピッチ・バンド	
	タッチ・センサー (静電容量方式)	ORGAN: ドローバー、KEY/LAYER: 音色コントロール、EQ: 9バンド・グラフィック・イコライザー	
オーディオ特性	周波数特性	20 [Hz]~22 [kHz] ±1.0 [dB] 10 [kΩ] 負荷	
	THD+N	20 [Hz]~22 [kHz] (標準) 10 [kΩ] 負荷 0.005 %	
	S/N比	105 [dB] (標準)	
オーディオ・アウトプット	OUTPUT L/MONO, R	6.3mmモノラル・フォン・ジャック (不平衡)	
		出力インピーダンス: 1.1 [kΩ] (ステレオ出力時)、 600 [Ω] (L/Mono端子、モノ出力時)	
		最大レベル: +16.0 [dBu] 負荷インピーダンス: 10 [kΩ]以上	
	OUTPUT L, R	コネクタ: XLR-3-32タイプ (平衡) +LIFT-GNDスイッチ	
		出力インピーダンス: 350 [Ω] (ステレオ出力時)	
		最大レベル: +16.0 [dBu] 負荷インピーダンス: 10 [kΩ]以上	
ヘッドホン	6.3mmステレオ・フォン・ジャック		
	出力インピーダンス: 50 [Ω]		
	最大レベル: 150mW+150mW @32[Ω]		
コントロール・インプット	DAMPER	コルグDS-1Hダンパー・ペダル (ハーフ・ダンパー対応)、PS-1、PS-3ペダル・スイッチ対応	
	ROTOR SPEED	コルグPS-1、PS-3ペダル・スイッチ対応	
	CONTROL	V861 ポリウム/エクスプレッション・ペダル	
その他	MIDI	IN、OUT	
	USB	USB A (TYPE A)	シーン・データのセーブ/ロード
		USB B (TYPE B)	MIDIインターフェイス 1 (16 ch)イン/1(16 ch)アウト
		USB規格Ver. 2.0に準拠、ハイスピード (480 Mbps対応)	
主要規格	電源	ACアダプター電源端子 (DC 15 V、 )、電源ボタン	
	外形寸法 (幅 x 奥行き x 高さ)	Continental-61	939 x 350 x 86 mm
		Continental-73	1,103 x 350 x 86 mm
	質量	Continental-61	7.2 kg
		Continental-73	8.4kg
消費電力	16W		
付属品	ACアダプター、電源コード、取扱説明書、V861ポリウム/エクスプレッション・ペダル		

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

仕様

アクセサリ

ダンパー・ペダル	コルグDS-1H
ペダル・スイッチ	コルグPS-1, PS-3
キーボード・スタンド	ST-Continental

* すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。



保証規定 (必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類(ヘッドホンなど)は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はご購入日より1か年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
 - ・ 消耗部品(電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど)の交換。
 - ・ お取り扱い方法が不適当のために生じた故障。
 - ・ 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
 - ・ 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 - ・ 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
 - ・ 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
 - ・ 本保証書の提示がない場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3か月以内に限り無償修理いたします。

3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、お客様相談窓口までお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなる場合がありますので、あらかじめお客様相談窓口へご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

VOX
Continental-61/73

保証書

本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日 年 月 日
販売店名

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路などのように機能維持のために必要な部品)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお客様相談窓口へお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよく読み、もう一度ご確認ください。それでも異常があるときは、お客様相談窓口へお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

修理または商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。
This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere.
Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口 0570-666-569

PHS等一部の電話ではご利用できません。固定電話または携帯電話からおかけください。
受付時間 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(祝祭日、窓口休業日を除く)

サービス・センター:

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-10

輸入販売元: KORG Import Division

〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

www.korg-kid.com